

1. 調査の概要

1) 調査の目的

男女共同参画社会の実現をめざして、能美市における男女共同参画の現状と市民の意識をアンケート調査で把握し、能美市男女共同参画プラン作成にあたっての基礎資料とする。

2) 調査の概要

- ・実施日：平成 26 年 10 月 20 日（月）～平成 26 年 10 月 31 日（金）
※11 月 11 日（火）回収分まで集計
- ・方法：郵送による配布回収
- ・対象者：能美市在住の満 20 歳以上の男女 2,500 名を無作為に抽出

3) 配布・回収結果

- ・配布数：2,500 票
- ・回収数：933 票（回収率：37.3%）
- ・年代別回収率

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
配布数	301	413	487	350	423	526	2500
回収数	59	123	147	155	226	223	933
回収率	19.7%	29.7%	30.1%	44.2%	53.5%	42.4%	37.3%

4) 設問構成

- ・回答者自身について
- ・男女共同参画社会について
- ・家庭生活について
- ・社会的な活動について
- ・人権について
- ・就労について
- ・行政について
- ・男女共同参画社会の実現について

5) 集計方法

- ・各設問の集計は、無回答を除いて小計し、これを母数（100.0%）として各選択項目の回答数の割合を示す。
- ・パーセンテージについては、小数第 2 位を四捨五入しているため、構成比の合計は必ずしも 100.0%には一致しない。
- ・複数回答の設問は、1 項目以上選択した回答者数を母数（100.0%）としているため、各選択項目の回答数の割合は、合計すると 100.0%を超える。

6) 各調査との比較

今回調査において、①～③の調査と設問及び選択肢が同じ（類似している）ものについては、調査結果の比較を行っている。

<比較設問一覧>

問	1	2	3	4	5	6	7	8A	8B	9	10	11	12	13			
前回	○	○	○	○	比較無し	○	○	○	比較無し	○	比較無し	○	比較無し	比較無し			
県	○	○		○		○				○		○					
国	○	○		○						○							
問	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27			
前回	○		○	○	比較無し	○	○	比較無し	比較無し	比較無し	○	○	○	○			
県	○	○	○			○								○			
国																	

①前回調査(H18)の概要

- ・実施日：平成 18 年 10 月 16 日（月）～平成 18 年 10 月 31 日（火）
- ・方 法：郵送による配布回収
- ・対象者：能美市在住の満 20 歳以上の男女 2,500 名を無作為に抽出
- ・配布数：2,500 票
- ・回収数：1,026 票（回収率：41.0%）

②石川県調査の概要

- ・調査名：男女共同参画に関する県民意識調査
- ・実施主体：石川県県民文化局男女共同参画課
- ・実施日：平成 22 年 5 月 28 日～平成 22 年 6 月 13 日
- ・方 法：郵送による配布回収
- ・対象者：石川県在住の満 20 歳以上の男女
- ・配布数：2,500 票
- ・回収数：1,316 票（回収率：52.6%）

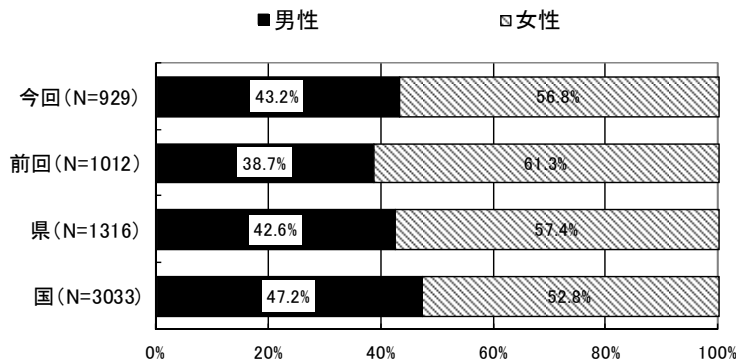
③国調査の概要

- ・調査名：男女共同参画に関する世論調査
- ・実施主体：内閣府（男女共同参画局）
- ・実施日：平成 24 年 10 月 11 日～平成 24 年 10 月 28 日
- ・方 法：調査員による個別面接聴取法
- ・対象者：全国 20 歳以上の日本国籍を有する者
- ・配布数：5,000 票
- ・回収数：3,033 票（回収率：60.7%）

2. 回答者の属性

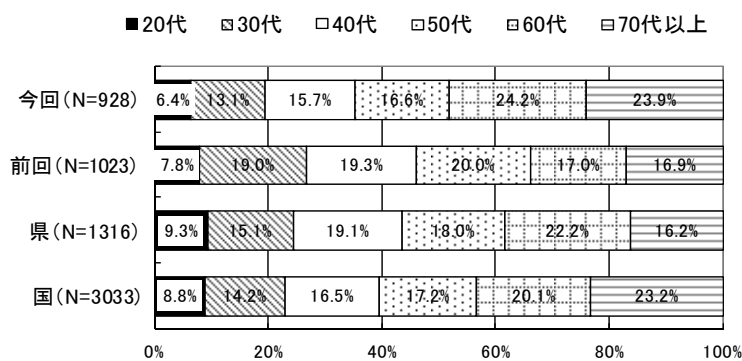
1) ご自身について

問1. あなたの性別はどちらですか。



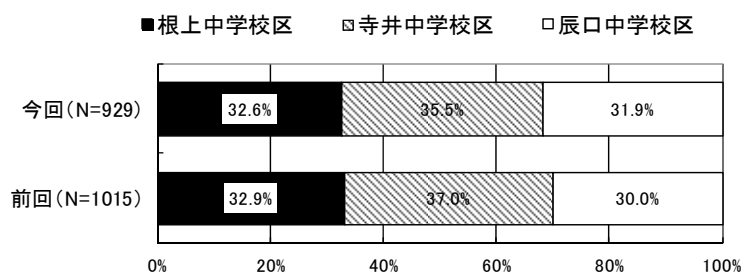
- ・「女性」の回答者が 56.8%を占めている。
- ・前回に比べ、「女性」の回答者の割合が減少している。
- ・県、国、能美市調査すべてにおいて「女性」の回答者が「男性」の回答者を上回っている。

問2. あなたの年齢はどの区分になりますか。



- ・「60代」が 24.2%で最も多く、「20代」は 6.4%と最も少ない。
- ・「60代」、「70代以上」の高齢層をあわせて 48.1%と約半数を占めている。
- ・前回と比べ、60代以上の回答者の割合は増加し、50代以下の回答者の割合は減少している。
- ・県では 60代 の回答者が最も多く、国では 70代以上の回答者が最も多くなっている。

問3. あなたのお住まいはどの校区ですか。



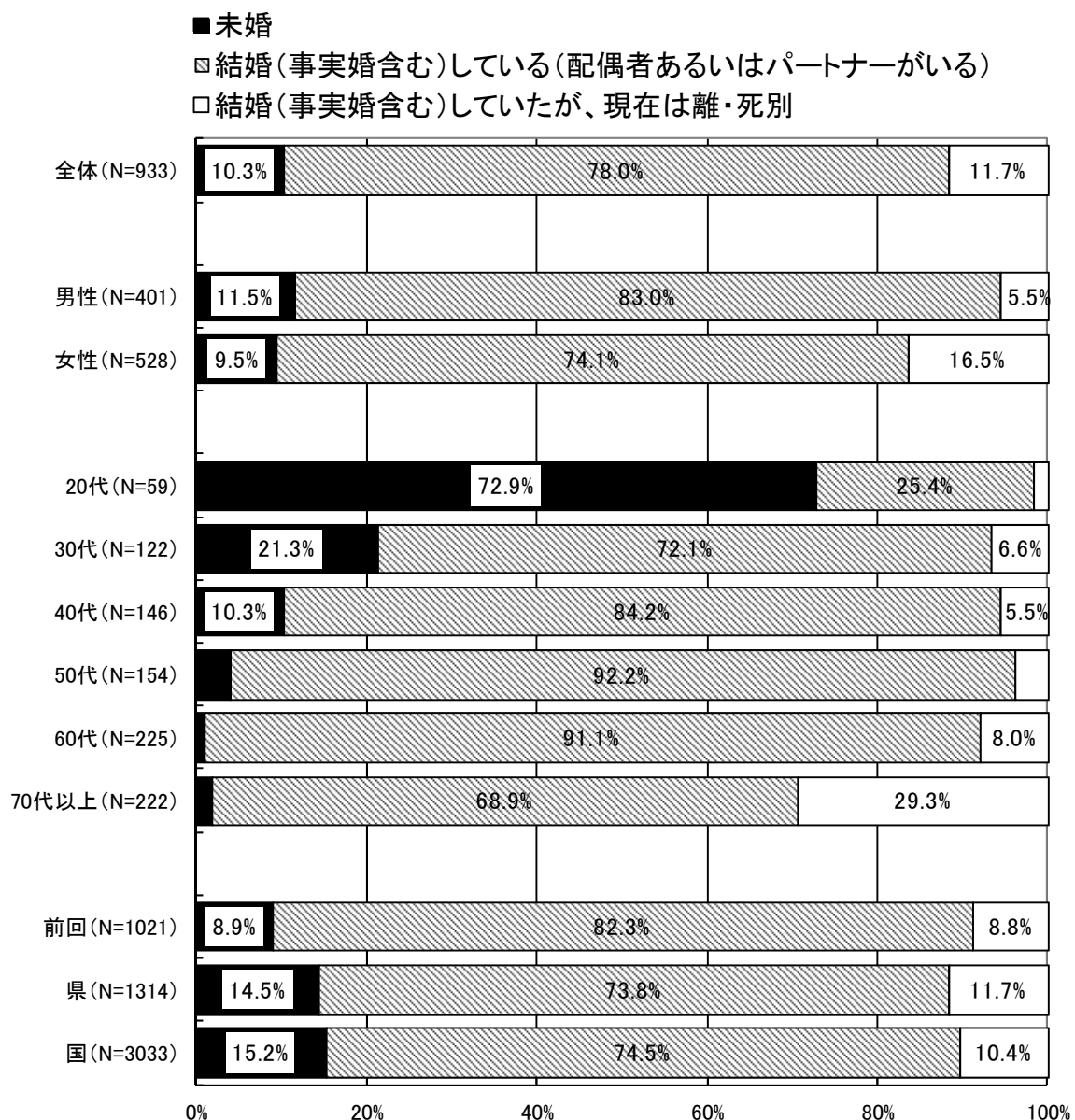
- ・「寺井中学校区」が 35.5%、「根上中学校区」が 32.6%、「辰口中学校区」が 31.9%となっている。
- ・前回と大きな差は見られない。

※ n は無回答を除く回答者数

問4. あなたは結婚していますか。

▼クロス集計：性別（問1）、年齢（問2）【前回、県、国調査と比較】

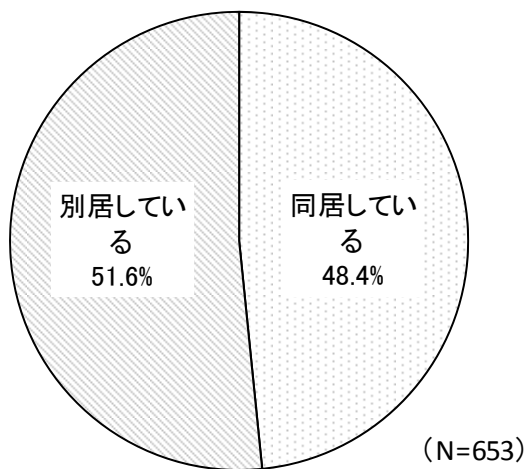
- ・全体では「結婚している（事実婚含む）」が78.0%を占めている。
- ・女性では「結婚（事実婚含む）していたが、現在は離・死別」が16.5%で、全体及び男性と比べて多くみられる。
- ・20代では「未婚」が72.9%、70代以上では「結婚（事実婚含む）していたが、現在は離・死別」が29.3%で、他の年齢層と比べて多くみられる。
- ・前回と比較して「結婚している（事実婚含む）」が4.3ポイント減少している。
- ・県や国と比較して「未婚」は県より4.2ポイント、国より4.9ポイント下回っている。



※5%未満は、数値表記を省略

問5. <結婚している方にお聞きします>

あなたご自身または配偶者の親と同居していますか。



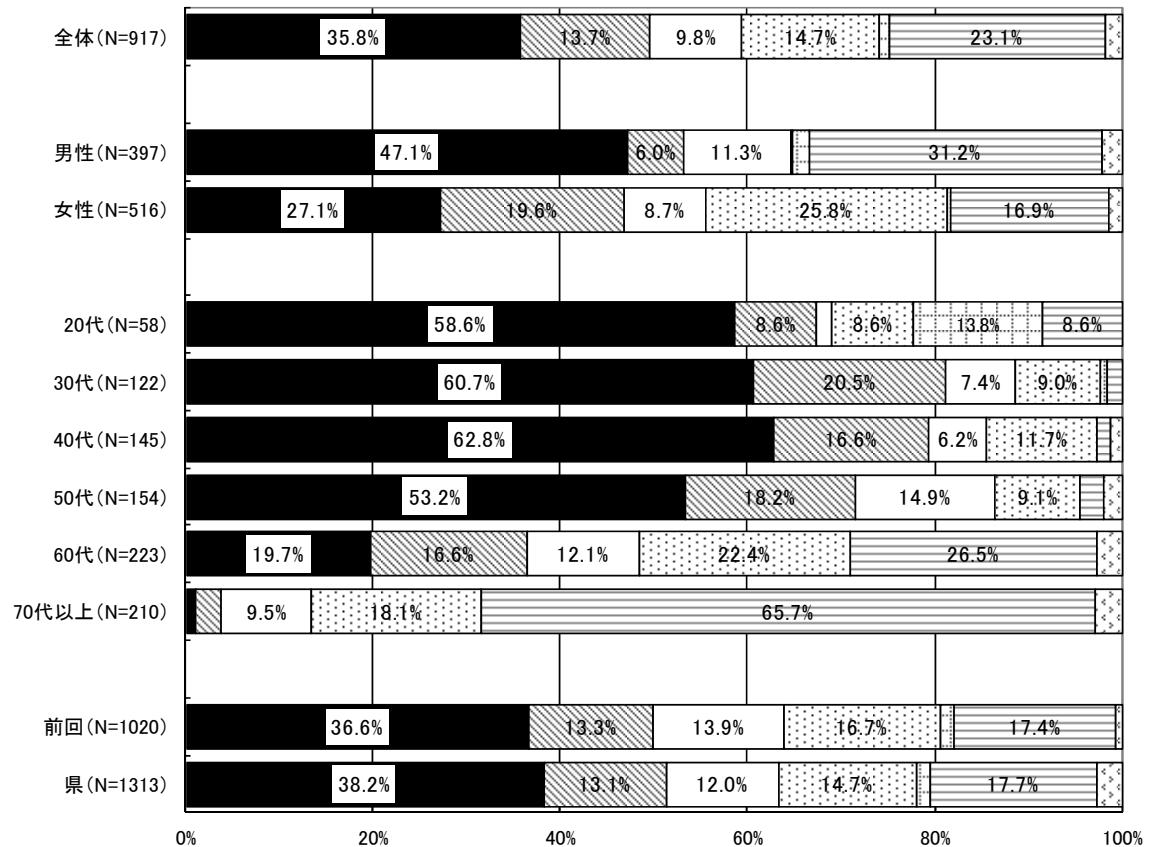
・「別居している」が51.6%を占めている。

問6. あなたの主たる職業は何ですか。(出産休暇、育児休業中などの人も働いているものとみなします。)(〇は1つ)

▼クロス集計：性別(問1)、年齢(問2)【前回、県調査と比較】

- ・全体では「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が35.8%を占め、最も多くなっている。
- ・男女共に「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が最も多く、男性では47.1%、女性では27.1%を占めている。
- ・20代～50代では「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が50%以上を占めている。
- ・前回と比較して「無職」が5.7ポイント増加しているが、60代以上の回答者の割合が増加していることに起因していると考えられる。
- ・県と比較して「無職」が5.4ポイント上回っているが、県より60代以上の回答者が多いことに起因していると考えられる。

- 会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人
- 自営業主または家族従業員
- 学生
- その他
- ▨会社、団体、官公庁などのパート、アルバイト等
- 主婦・主夫
- 無職



※5%未満は、数値表記を省略

3. アンケート集計結果

1) 男女共同参画社会について

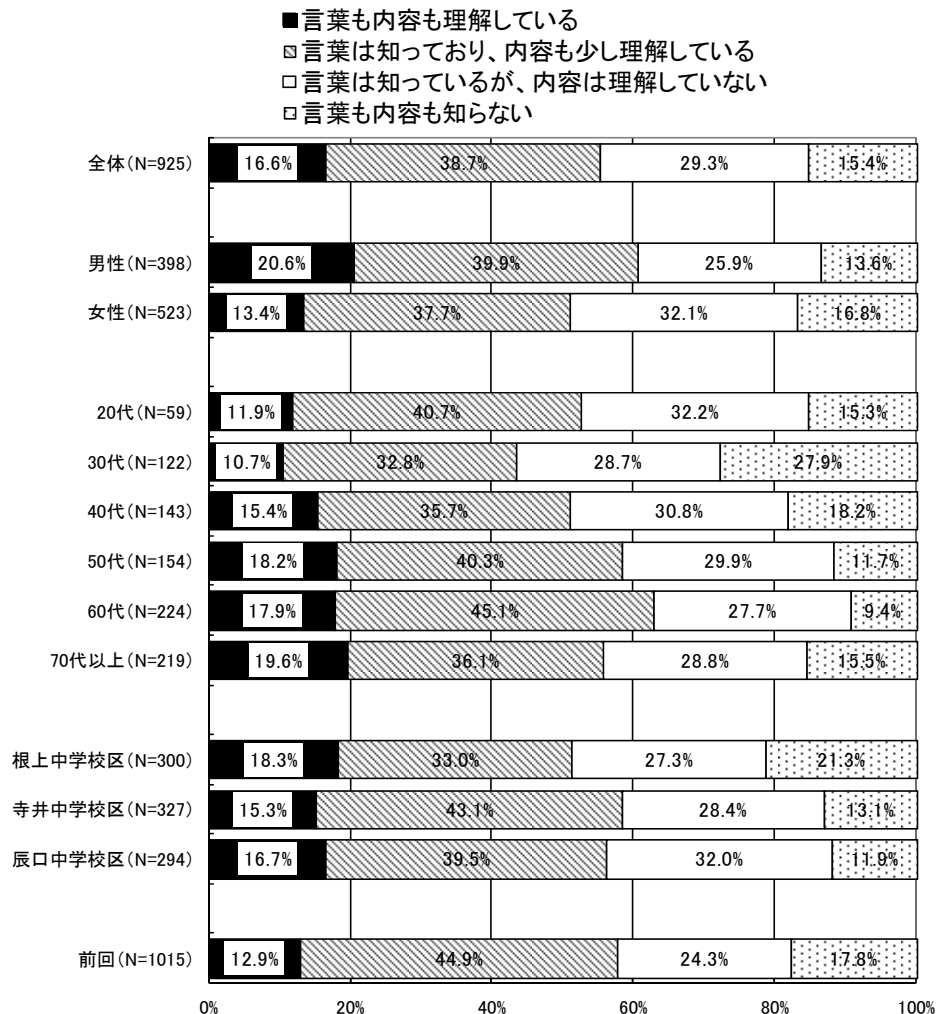
問7. あなたは「男女共同参画社会」について、どの程度理解していますか。(〇は1つ)

▼クロス集計：性別（問1）、年齢（問2）、校区别（問3）【前回調査と比較】

- ・全体では「言葉は知っており、内容も少し理解している」が38.7%で最も多く、一方「言葉も内容も知らない」は15.4%みられる。
- ・男性では「言葉も内容も理解している」が20.6%で、「言葉は知っており、内容も少し理解している」とあわせても、男性は女性より『男女共同参画社会』について理解している。
- ・おおよそ、年代が上がるにつれて『男女共同参画社会』についての理解度が高まる傾向にある。
- ・校区别では、根上中学校区で「言葉も内容も知らない」が最も多くなっている。
- ・前回と比較して「言葉も内容も理解している」と「言葉は知っており、内容も少し理解している」の合計は2.5ポイント減少している。

能美市男女共同参画プラン(H22)における目標値との比較：

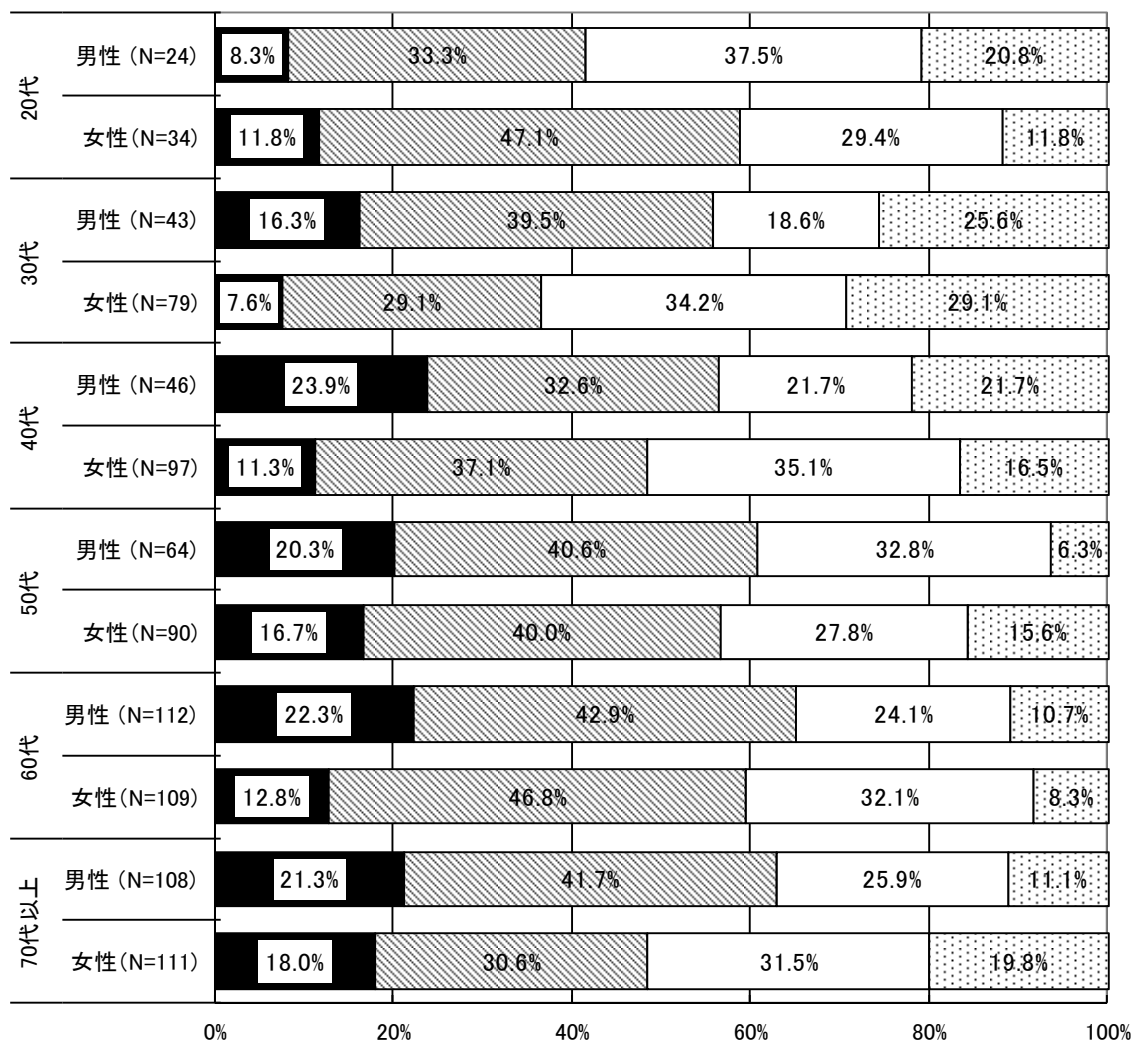
『男女共同参画社会に対して内容を理解している人の割合』（「言葉も内容も理解している」＋「言葉は知っており、内容も少し理解している」）のH26の目標値は70.0%であるが、アンケート結果では55.3%であり、14.7ポイント下回っている。



▼3重クロス集計：性別（問1）、年齢別（問2）

・20代では、男性は「言葉は知っているが、内容は理解していない」が37.5%で最も多いのに対し、女性は「言葉は知っており、内容も少し理解している」が47.1%で最も多く、女性の方が『男女共同参画社会』について理解している。
 ・30代では、男性は「言葉は知っており、内容も少し理解している」が39.5%で最も多いのに対し、女性は「言葉は知っているが、内容は理解していない」が34.2%で最も多く、男性の方が『男女共同参画社会』について理解している。

■言葉も内容も理解している □言葉は知っており、内容も少し理解している
 □言葉は知っているが、内容は理解していない □言葉も内容も知らない



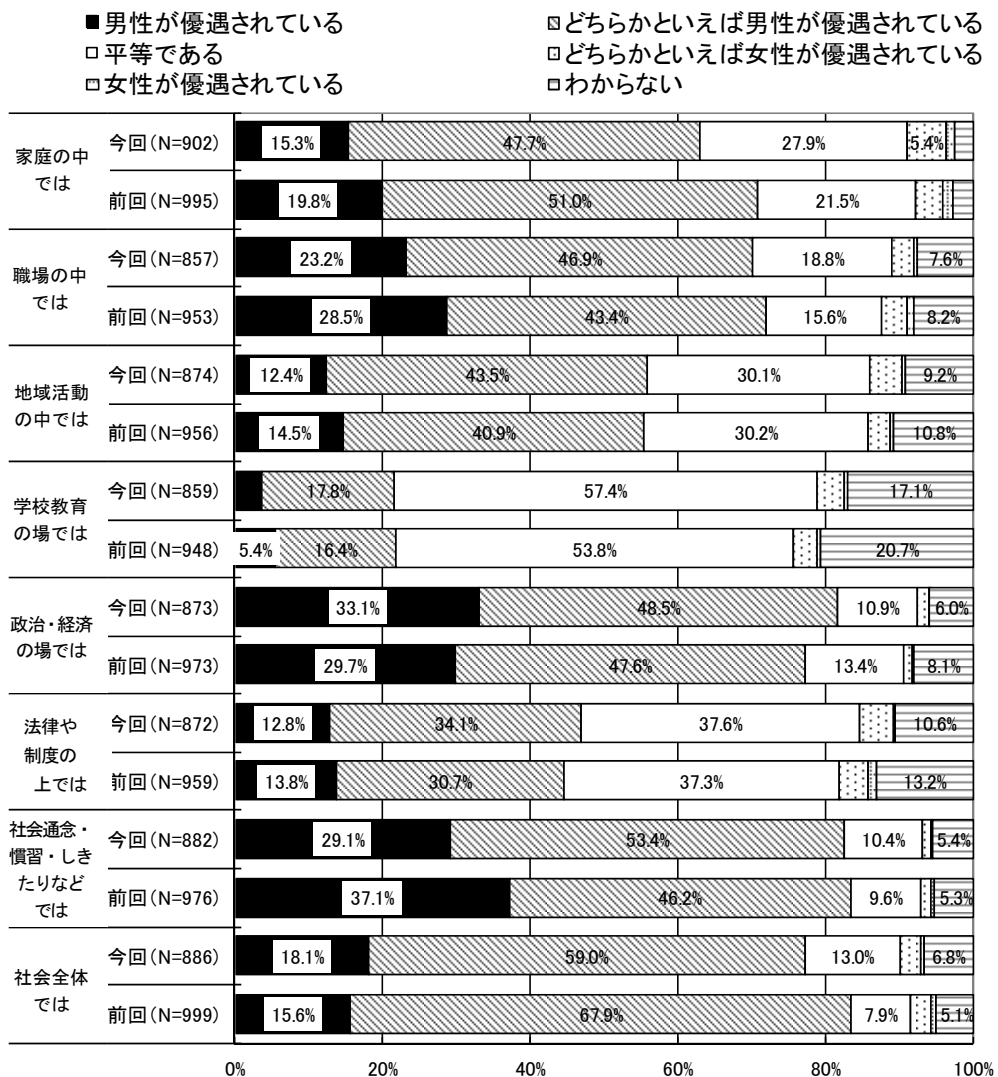
問8-A. 現在の日本の社会において、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの分野について、あなたの考えに近いものの番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

▽全体集計【前回調査と比較】

- ・「平等である」との認識は、『学校教育の場』、『法律や制度の上』、『地域活動の中』が各々57.4%、37.6%、30.1%で多くみられる。
- ・『社会全体』では「平等である」が13.0%にとどまり、約8割の回答者が男性優位社会であると認識しているが、前回と比較すると5.1ポイント増加している。
- ・前回と比較して『地域活動の中』、『政治・経済の場』、『法律や制度の上』は「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」の割合の合計が増加している。

能美市男女共同参画プラン(H22)における目標値との比較：

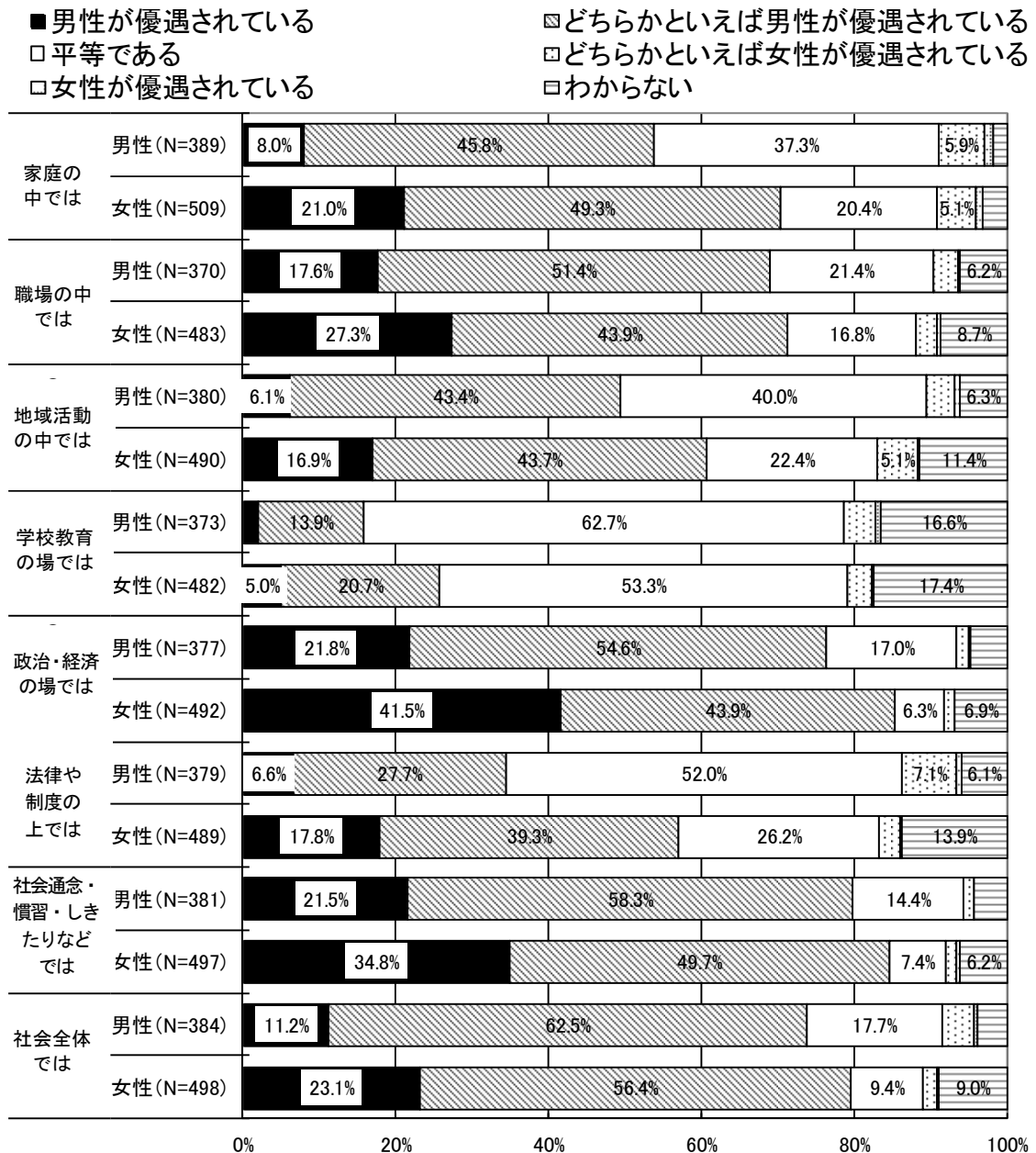
『社会全体において「男女は平等」と感じている人の割合』H26の目標値は30.0%であるが、アンケート結果では13.0%であり、17.0ポイント下回っている。



※5%未満は、数値表記を省略

▼クロス集計：性別（問1）

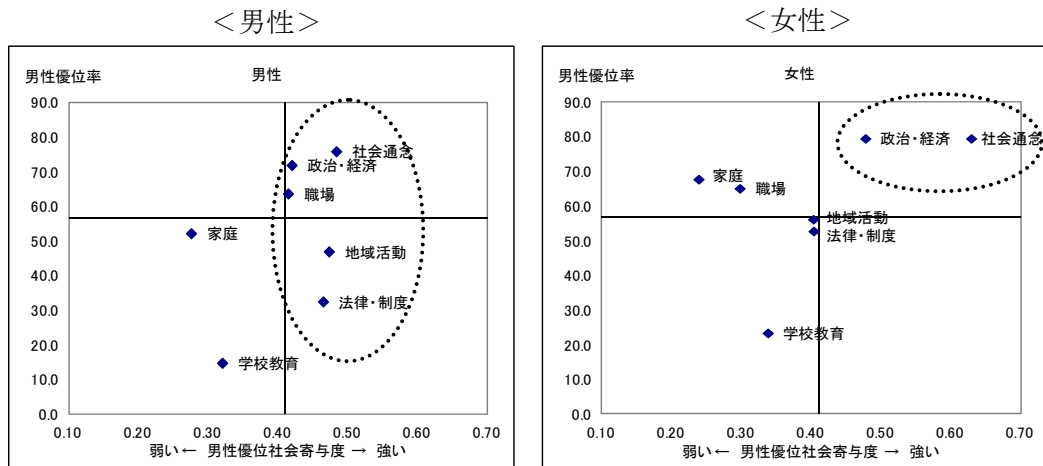
- ・男女別にみると、いずれの項目についても男性より女性のほうが「男性が優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」と認識している。
- ・『法律や制度の上』、『家庭の中』、『地域活動の中』については、男女の間で認識の差が大きく、「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」の合計は、女性が男性より各々22.8ポイント、16.5ポイント、11.1ポイント上回っている。



※5%未満は、数値表記を省略

▼男性優位社会の要因分析

- ・男性優位社会の要因として
 - ①男性では、「社会通念」、「政治・経済」、「職場」、「地域活動」、「法律・制度」環境が影響している。
 - ②女性では、「社会通念」、「政治・経済」環境が影響している。



※男女の平均値は異なるため、比較しやすいように全体（男女合計）平均で座標軸を設定している。

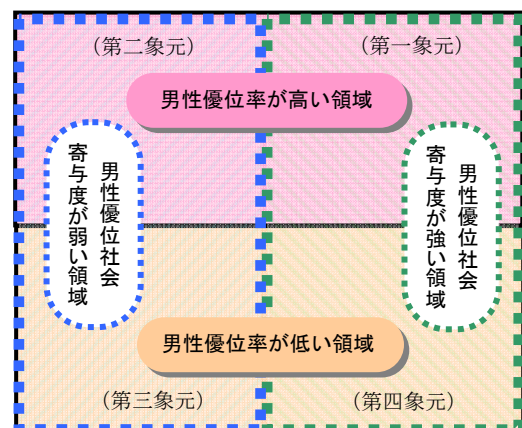
	男性優位社会 寄与度	男性優位率
家庭	0.28	52.1
職場	0.41	63.6
地域活動	0.47	46.9
学校教育	0.32	14.7
政治・経済	0.42	71.8
法律や制度	0.46	32.4
社会通念	0.48	75.8

	男性優位社会 寄与度	男性優位率
家庭	0.24	67.8
職場	0.30	65.2
地域活動	0.40	56.3
学校教育	0.34	23.5
政治・経済	0.48	79.5
法律や制度	0.40	52.8
社会通念	0.63	79.5

【参考】分析の概要

各項目の男性優位率をみるだけでなく、社会全体評価との相関により当該項目ごとの男性優位社会の寄与度を算定してグラフ化したものが要因分析グラフである。

- ①縦軸は男性優位率で、男性がどの程度の優位性を持っているかを判定する軸である。
従って、上(数字が大きい)に位置するほど、当該項目に対して男性優位と判断していることを示す。
- ②横軸は男性優位社会との相関がどの程度であるかを判定する軸である。
従って、右(数字が大きい)に位置するほど、社会全体としてみたとき、当該項目が男性優位社会の要因であると強く感じていることを示す。



各象元を分割する基準線は縦軸、横軸ともに算定された数値の平均値であり、以下の説明における領域判定はこの平均値より大きいか、小さいかを表示しており、**各項目の相対的特性を示す**ものである。

第一象元	男性が優位と判断しており、かつ男性優位社会となっている要因だと感じている領域。
第二象元	男性が優位と判断しているが、男性優位社会となっている要因とは感じていない領域。
第三象元	男性が優位ではないと判断しており、かつ男性優位社会となっている要因でもないと感じている領域。
第四象元	男性が優位ではないと判断しているが、男性優位社会となっている要因だと感じている領域。

<男女差異の分析>

以上の内容を男女ごとに分析する。

(1) 家庭

- ①男性 : 男性優位率は 52.1%であり、男性優位社会への影響は小さい。
- ②女性 : 男性より 15.7 ポイント高く男性優位と判断しているが、男性優位社会への影響は小さい。
- ③まとめ : 女性は家庭における男性優位を認めているが、男女ともに男性優位社会への影響は小さい。

(2) 職場

- ①男性 : 男性優位率は 63.6%であり、男性優位社会へある程度の影響がある。
- ②女性 : 男性より 1.6 ポイント高く男性優位と判断しているが、男性優位社会への影響は小さい。
- ③まとめ : 男女ともに職場における男性優位は認めているが、男性優位社会への影響は男女の差が大きい。

(3) 地域活動

- ①男性 : 男性優位率は 46.9%であり、男性優位社会に大きく影響している。
- ②女性 : 男性より 9.4 ポイント高く男性優位と判断しているおり、男性優位社会へある程度影響がある。
- ③まとめ : 女性は地域活動における男性優位は認めているが、男性はあまり認めていない。しかし、男性のほうが男性優位社会への影響は大きい。

(4) 学校教育

- ①**男性** : 男性優位率は 14.7%であり、全項目中最も低く、男性優位社会への影響は小さい。
- ②**女性** : 男性優位率は 23.5%で全項目中最も少ない。また、女性のほうが 8.8 ポイント高く男性優位と判断しているが、男性優位社会への影響は小さい。
- ③**まとめ** : 男女ともに男性優位と判断しておらず、男性優位社会への影響は小さい。

(5) 政治・経済

- ①**男性** : 男性優位率は 71.8%であり、全項目中 2 番目に多く、男性優位社会へある程度の影響がある。
- ②**女性** : 男性優位率は 79.5%に達し、全項目中で最も多い。さらに、男性より 7.7 ポイント高く男性優位と判断しており、男性優位社会への影響は大きい。
- ③**まとめ** : 男女ともに男性優位と判断しており、女性の方が男性優位社会への影響は大きい。

(6) 法律・制度

- ①**男性** : 男性優位率は 32.4%であり、全項目中 2 番目に少ないものの、男性優位社会への影響は大きい。
- ②**女性** : 男性優位率は 52.8%で全項目中 2 番目に少ないが、男性と比べ 20.4 ポイント高く男性優位と判断しており、その差は大きい。しかし、男性優位社会への影響はあまり大きくない。
- ③**まとめ** : 男女ともに比較的男性優位とは判断しておらず、男性は女性と比べ男性優位社会への影響が大きい。

(7) 社会通念

- ①**男性** : 男性優位率は 75.8%であり、全項目中最も多く、男性優位社会への影響は大きい。
- ②**女性** : 男性優位率は 79.6%で、全項目中最も多く、男性優位社会への影響は大きい。
- ③**まとめ** : 男女ともに男性優位と判断しており、男性優位社会への影響は大きい。

<男女差異のまとめ>

男性優位社会の要因として

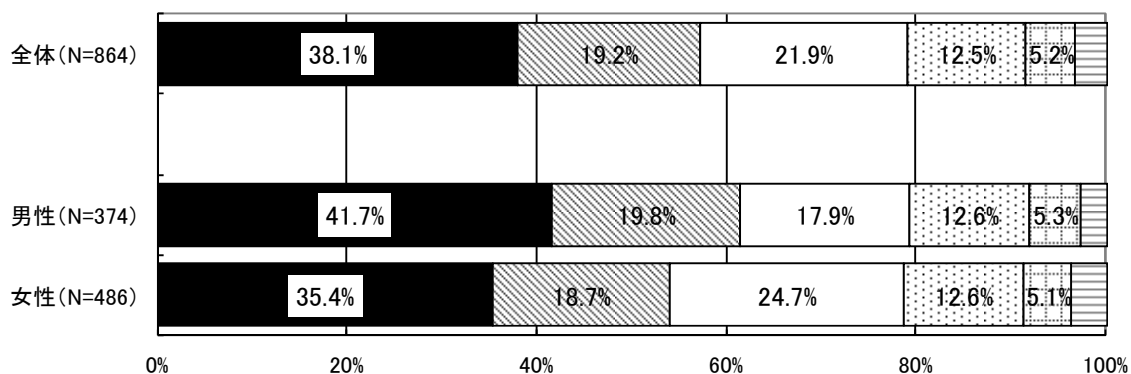
- ①**男性** : 「社会通念」、「政治・経済」、「職場」、「地域活動」、「法律・制度」環境が影響している。
- ②**女性** : 「社会通念」、「政治・経済」環境が影響している。

問 8-B. 今後、男女が社会のあらゆる分野でより平等になるために最も重要だと思うことは何ですか。(〇は1つ)

▼クロス集計：性別（問1）

- ・全体、男性、女性すべてにおいて、「女性、男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も多くなっている。
- ・女性は「女性の就業、社会参画を支援するサービスや施設の充実を図ること」で男性より 6.8 ポイント上回っている。

- 女性、男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること
- ▣女性自身が経済力をつける、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること
- 女性の就業、社会参画を支援するサービスや施設の充実を図ること
- 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
- ▣政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- その他



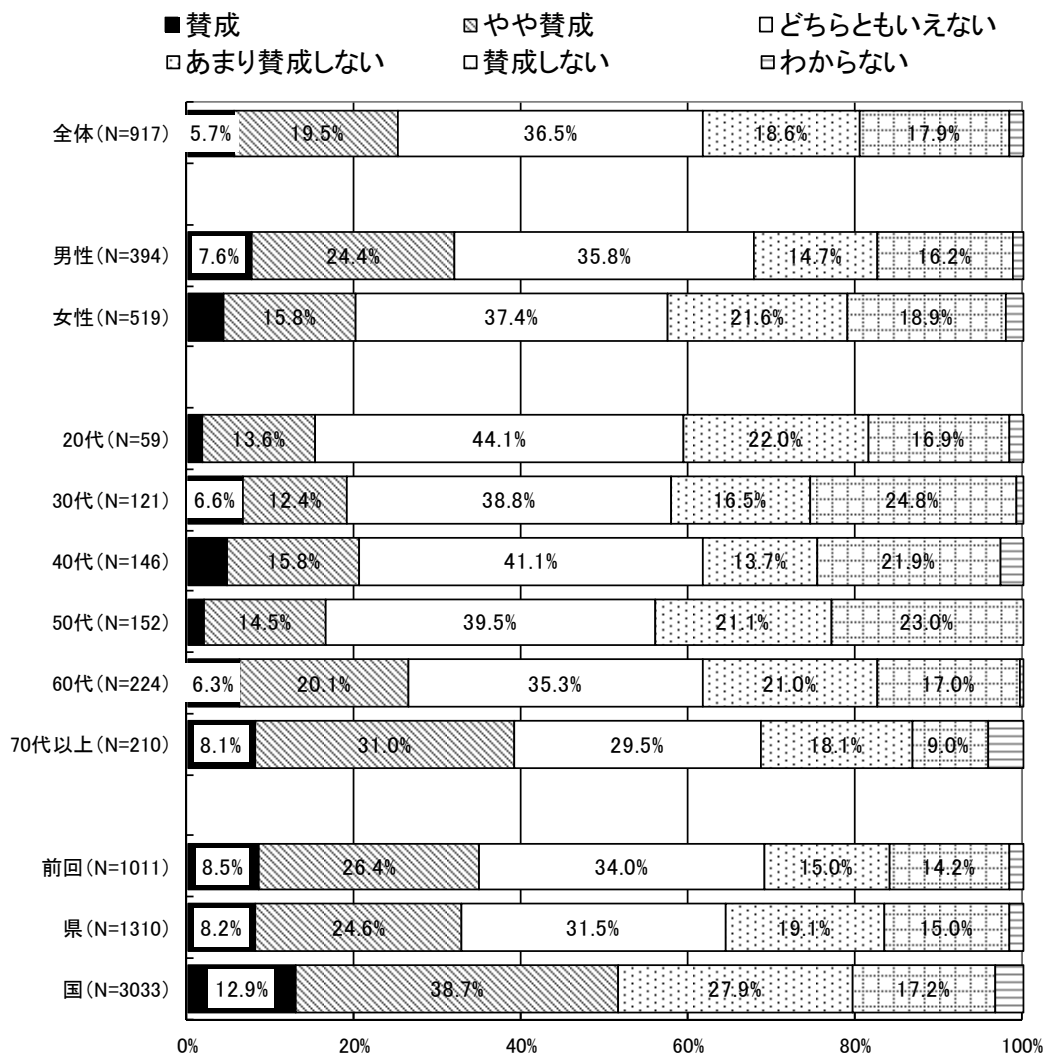
※5%未満は、数値表記を省略

2) 家庭生活について

問9. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)

▼クロス集計：性別(問1)、年齢(問2)【前回、県、国調査と比較】

- ・全体では「どちらともいえない」が36.5%で最も多くみられるが、「あまり賛成しない」と「賛成しない」の合計は「賛成」と「やや賛成」の合計を上回っている。
- ・男性では「賛成」と「やや賛成」の合計が32.0%、女性では「あまり賛成しない」と「賛成しない」の合計が40.5%であり、男女間で考え方の違いが見られる。
- ・前回と比較すると「賛成」と「やや賛成」の合計は9.7ポイント減少し、「あまり賛成しない」と「賛成しない」の合計は7.3ポイント増加している。
- ・能美市は、石川県全体と比較し「賛成」と「やや賛成」の合計が7.6ポイント下回っている。
- ・「60代」と「70代以上」は、他の年代と比べ賛成意見が多く、「70代以上」は反対意見が少ない傾向がある。



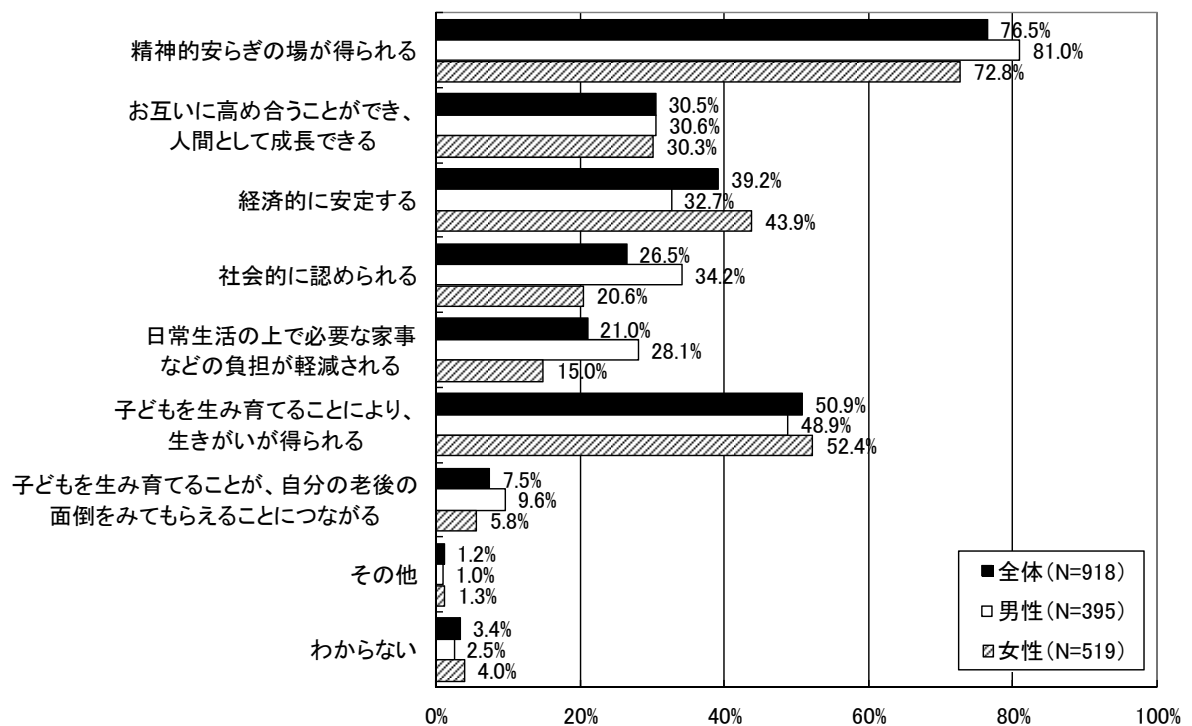
※5%未満は、数値表記を省略

※国では「どちらともいえない」が選択肢に含まれていないため、比較不可

問10. あなたは家庭から、何を得られると思いますか。（〇はいくつでも）

▼クロス集計：性別（問1）

- ・全体、男性、女性すべてにおいて「精神的安らぎの場が得られる」が最も多く、次いで「子どもを生み育てることにより、生きがい得られる」が多くなっている。
- ・男性は「社会的に認められる」、「日常生活の上で必要な家事などの負担が軽減される」が全体、女性と比較して多く、女性は「経済的に安定する」が全体、男性と比較して多くなっている。



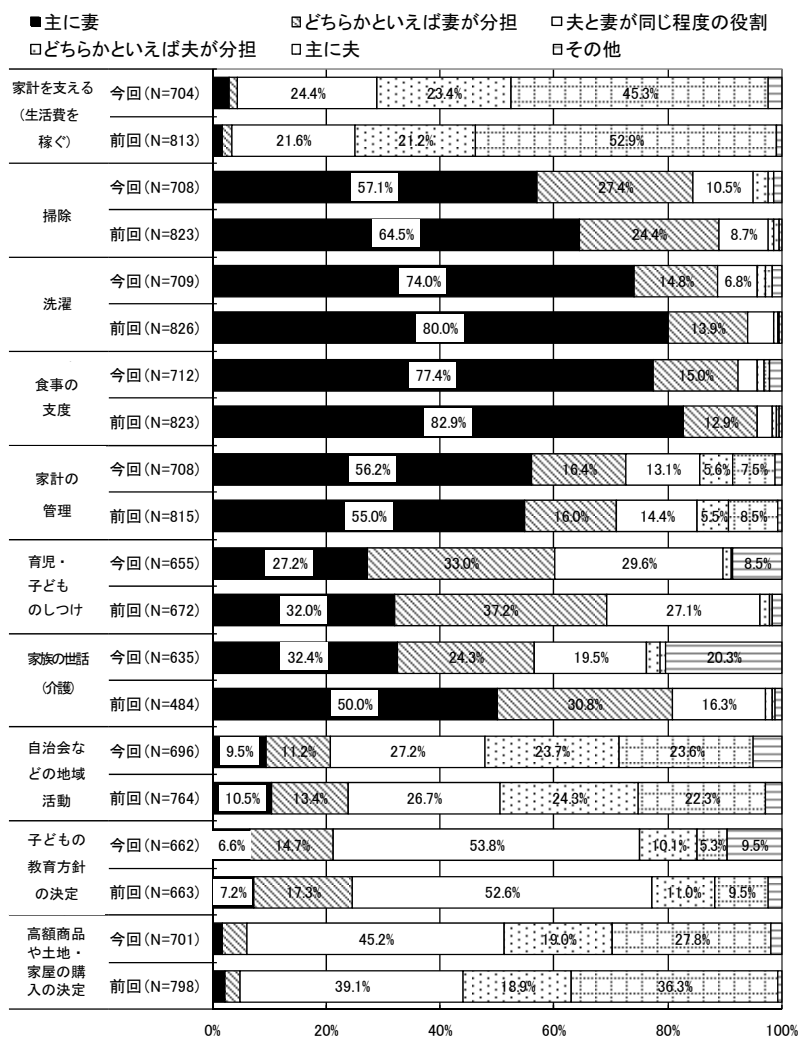
問11. <結婚している方にお聞きします>

現在の状況をお聞きします。次に上げる家庭の仕事は、誰が行っていますか。(〇はそれぞれ1つ)

▽全体集計【前回調査と比較】

- ・『掃除 (57.1%)』、『洗濯 (74.0%)』、『食事の支度 (77.4%)』、『家計の管理 (56.2%)』の4項目は、「主に妻」の割合が50%以上となっているが、前回と比較すると、このうち『掃除』、『洗濯』、『食事の支度』の3項目は「主に妻」の割合が減少している。
- ・前回と比較して、『家族の世話 (介護)』では「主に妻」及び「どちらかといえば妻」の割合が大幅に減少している。
- ・『家計を支える (生活費を稼ぐ) (45.3%)』は「主に夫」の割合が40%以上である。
- ・『子どもの教育方針の決定 (53.8%)』、『高額の商品や土地・家屋の購入の決定 (45.2%)』、『自治会などの地域活動 (27.2%)』については、「夫と妻が同じ程度の役割」の割合が他より上回っている。

※配偶者・パートナーがいる728人が対象



※非該当者、無回答を除く
 ※5%未満は、数値表記を省略

▼クロス集計：親との同居（問5）

・『育児、子どものしつけ』、『家族の世話（介護）』、『子どもの教育方針の決定』を除く項目において、「主に妻」で別居が同居を上回っている。
 ・『家族の世話（介護）』については、「主に妻」では同居が別居を 8.9 ポイント、「その他」では別居が同居を 11.9 ポイント上回っている。

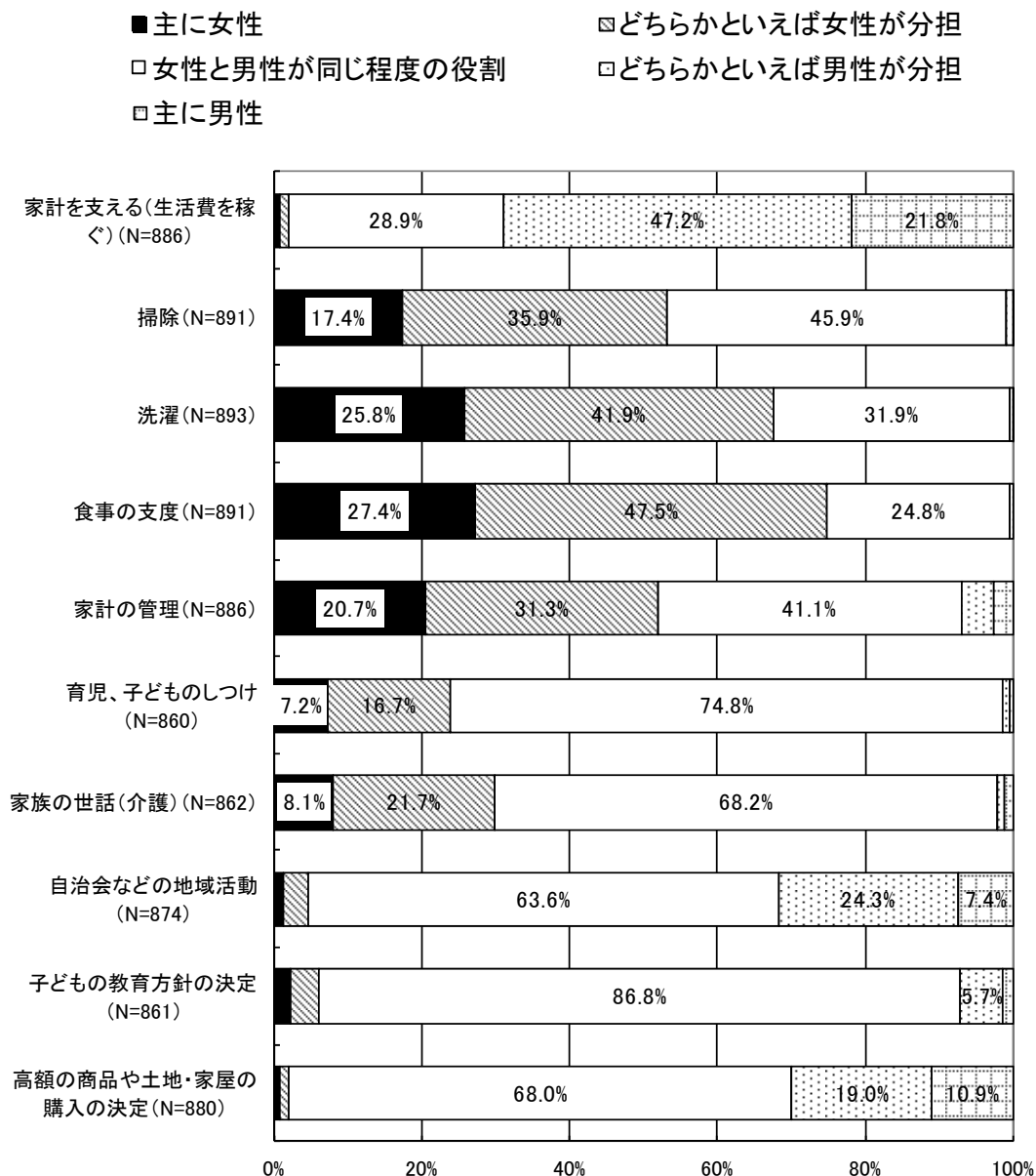


問12. <全員にお聞きします>

あなたの考え方をお聞きします。次にあげる家庭の仕事は、誰の役割だと思いま
すか。（○はそれぞれ1つ）

▽全体集計

- ・『掃除』、『洗濯』、『食事の支度』、『家計の管理』の4項目については、「主に女性」と「どちらかといえば女性」の合計が50%を上回っている。
- ・『家計を支える』は唯一「主に男性」と「どちらかといえば男性が分担」の合計が50%以上となっている。
- ・『育児、子どものしつけ』、『家族の世話（介護）』、『自治会などの地域活動』、『子どもの教育方針の決定』、『高額の商品や土地・家屋の購入の決定』については、「女性と男性が同じ程度の役割」が大半を占めている。

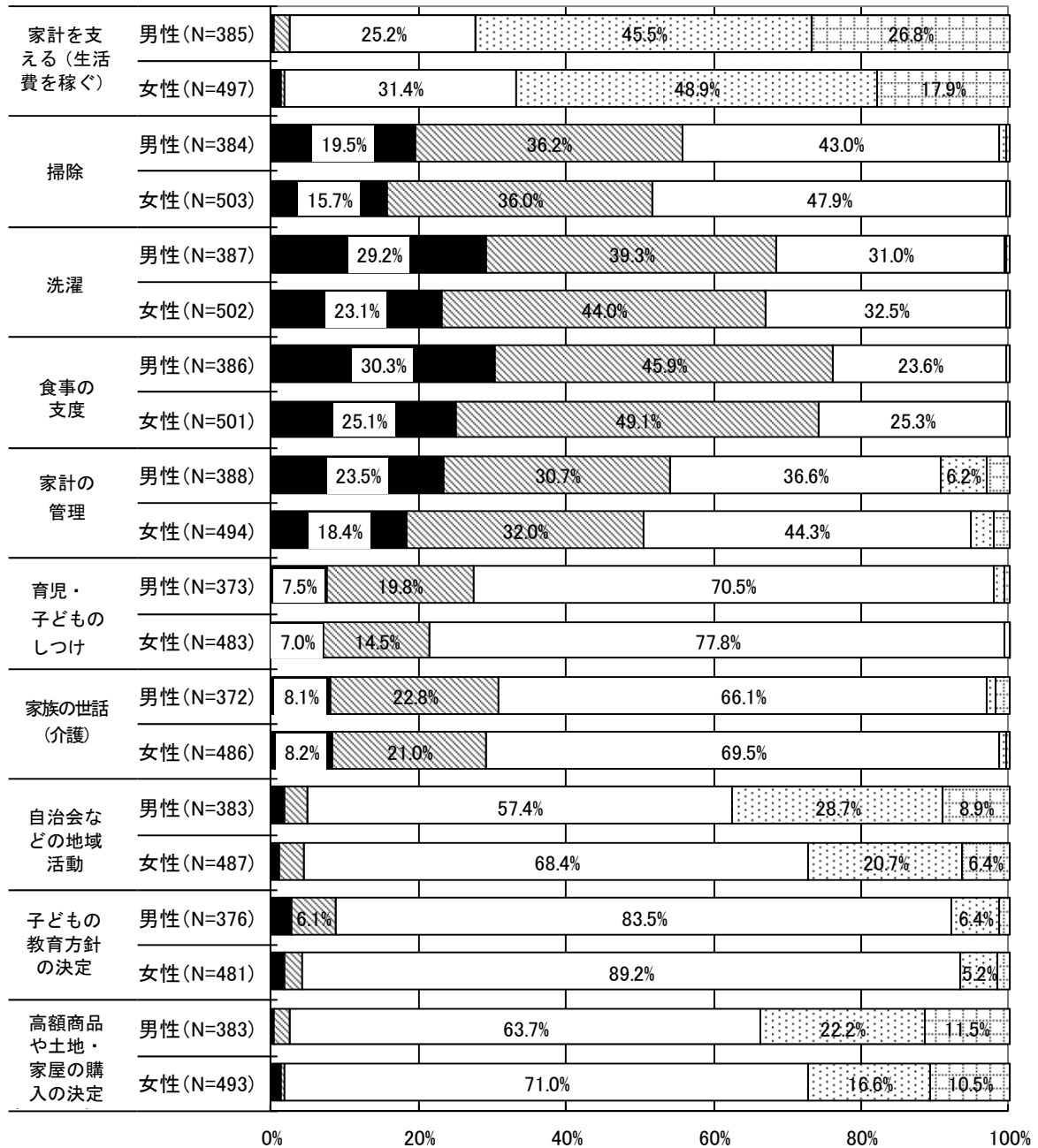


※5%未満は、数値表記を省略

▼クロス集計：性別（問1）

・男女間で大きな差が見られる項目はないが、『洗濯』、『食事の支度』、『家計の管理』について「主に女性」で男性が女性より5ポイント以上上回っている。

- 主に女性
- 女性と男性が同じ程度の役割
- 主に男性
- ▨ どちらかといえば女性が分担
- ▩ どちらかといえば男性が分担

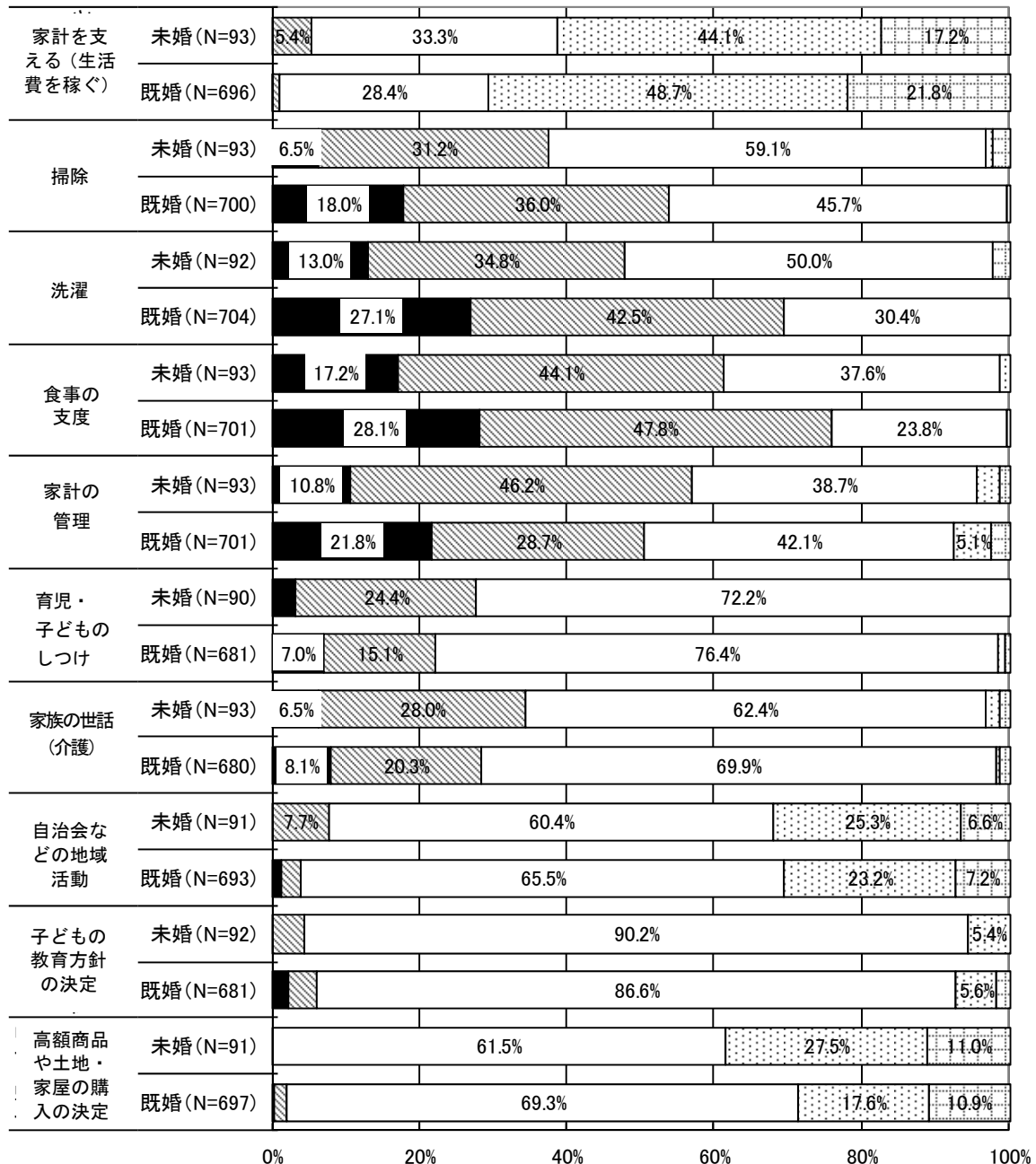


※5%未満は、数値表記を省略

▼クロス集計：未婚・既婚（問4）

・『掃除』、『洗濯』、『食事の支度』については、「主に女性」と「どちらかといえば女性」の合計は既婚者が未婚者を上回っている。

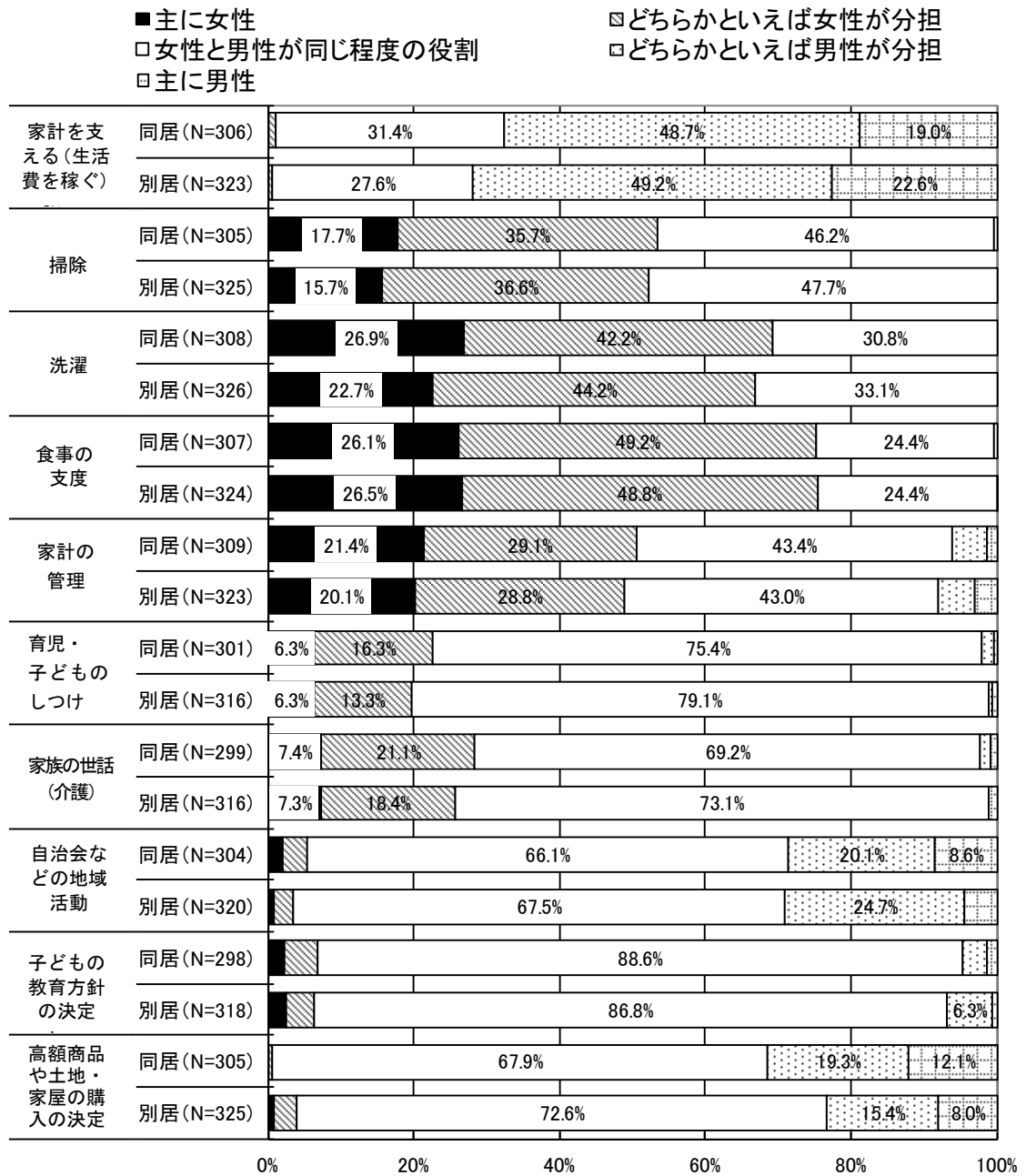
- 主に女性
- 女性と男性が同じ程度の役割
- ▨ どちらかといえば女性が分担
- ▩ どちらかといえば男性が分担
- 主に男性



※5%未満は、数値表記を省略

▼クロス集計：親との同居（問5）

・同居と別居で大きな差はみられない。

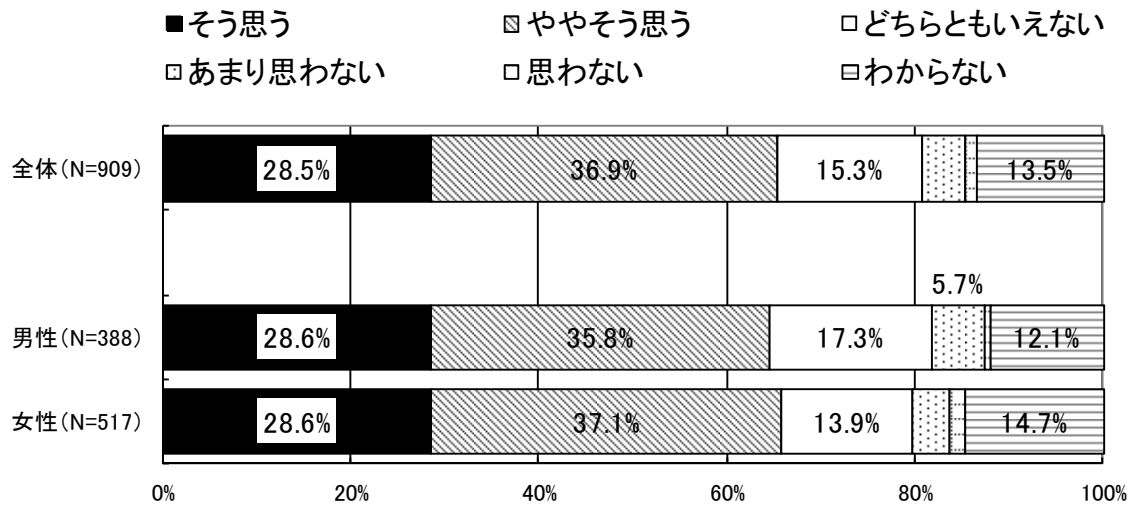


※5%未満は、数値表記を省略

問13. 能美市は子育てしやすいまちだと思いますか。(〇は1つ)

▼クロス集計：性別（問1）

- ・全体では、「そう思う」「ややそう思う」の合計が60%以上となっている。
- ・男女間で大きな差は見られない。

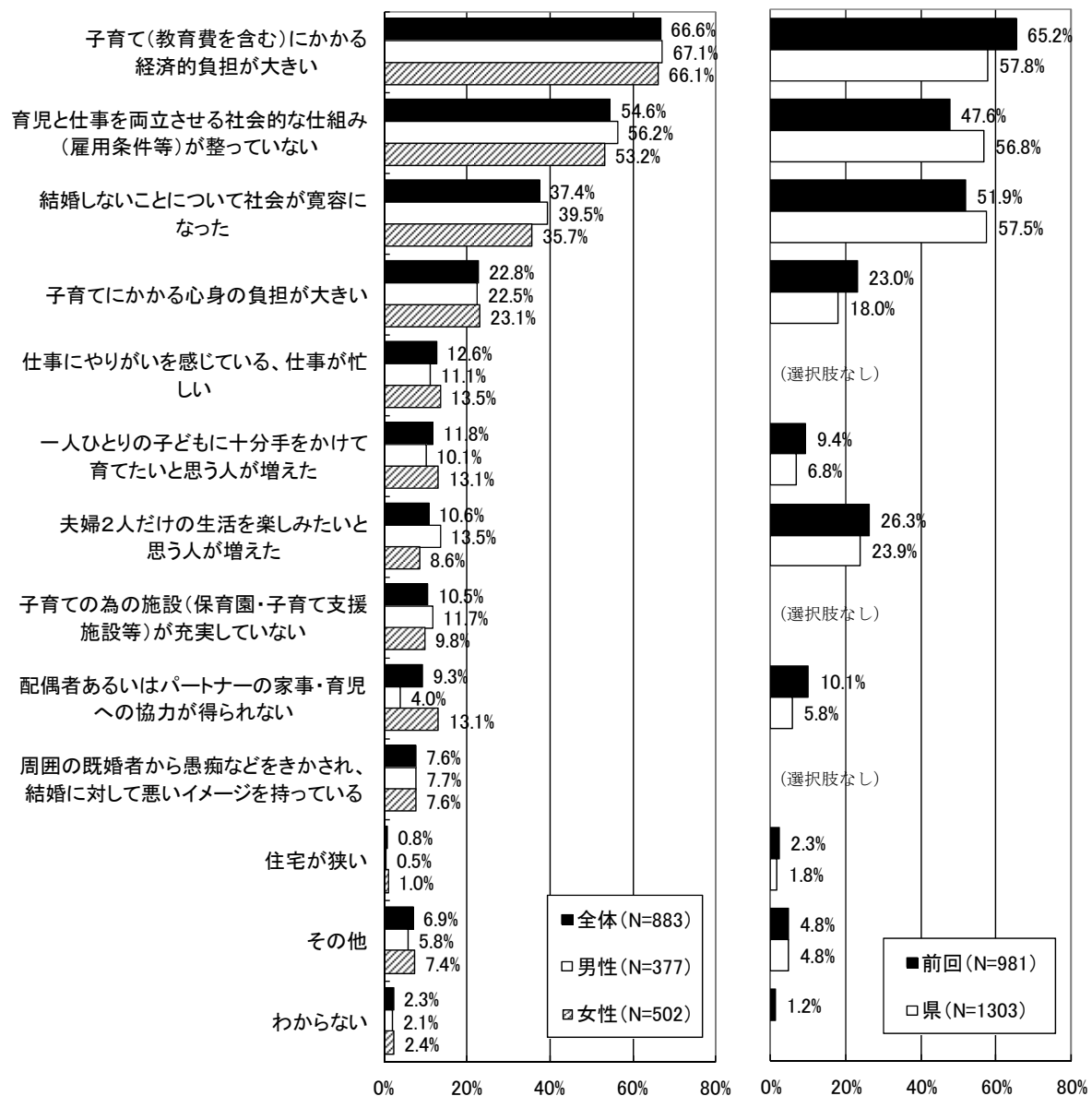


※5%未満は、数値表記を省略

問14. 近年、生まれる子どもの数が少なくなっていますが、あなたはその原因は何だと思
いますか。(〇は3つまで)

▼クロス集計：性別（問1）【前回、県調査と比較】

・全体では「子育て（教育費を含む）にかかる経済的負担が大きい」が66.6%で最も多
く、次いで「育児と仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件等）が整っていない」
が54.6%、「結婚しないことについて社会が寛容になった」が37.4%となっており、
男女ともに同様の傾向を示している。
・「結婚しないことについて社会が寛容になった」、「夫婦2人だけの生活を楽しまたいと
思う人が増えた」については、前回及び県の結果と比較して低くなっている。



※全体の割合が多い順に並び替えて表記

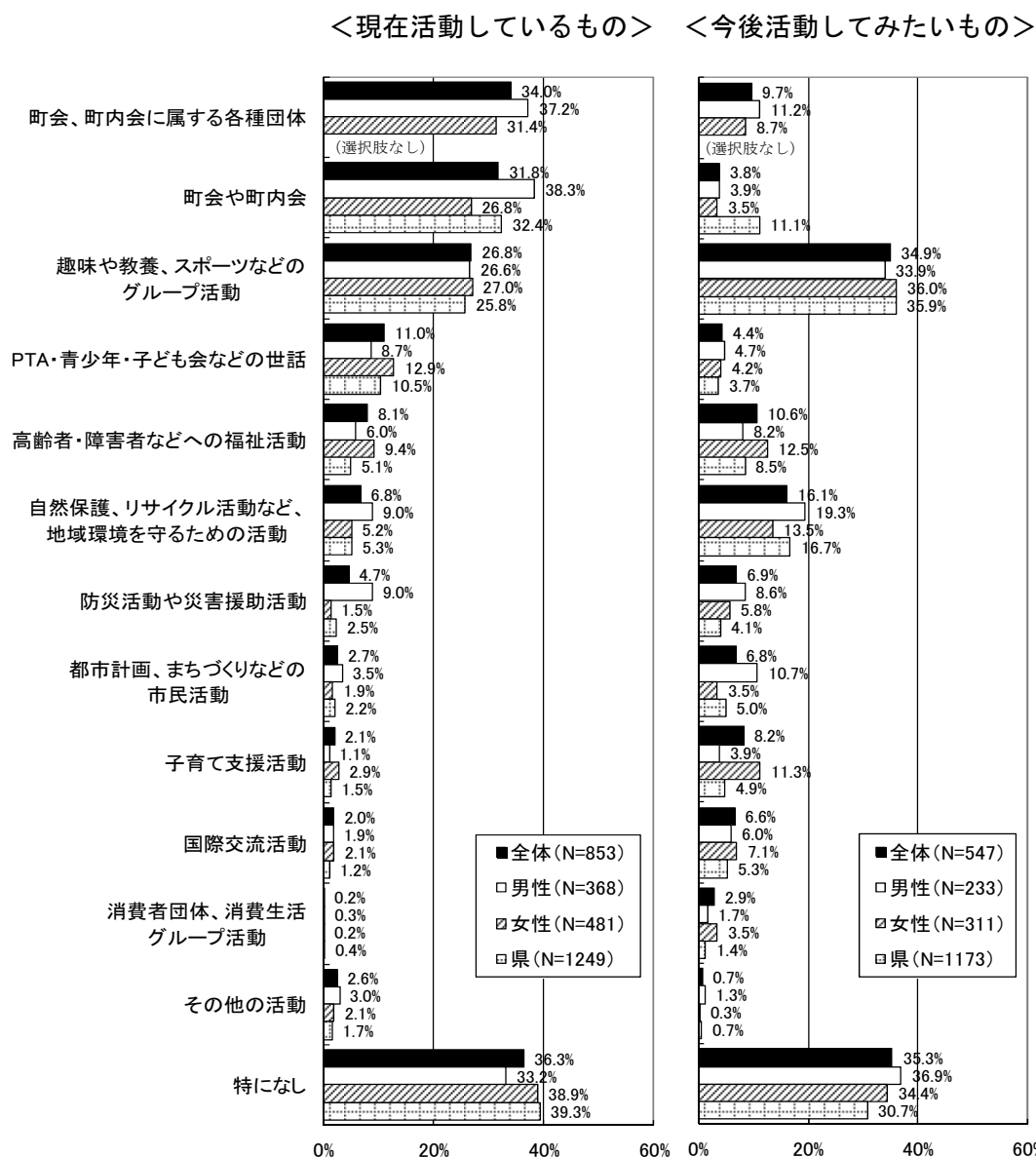
その他意見：核家族化による周囲の支援不足、結婚に夢を持たない、子どもをもうけることへの軽視、異性への興味の薄れ、出会いの場の減少、晩婚化による高齢出産の増加 など

3) 社会的な活動について

問15. あなたは団体やグループで、仕事以外の社会的な活動をしていますか。

▼クロス集計：性別（問1）【県調査と比較】

- ・『現在活動しているもの』については、全体では「町会、町内会に属する各種団体」が34.0%で最も多く、次いで「町会や町内会」が31.8%、「趣味や教養、スポーツなどのグループ活動」が26.8%となっている。
- ・男女別にみると、男性では「町会や町内会」が38.3%、「防災活動や災害援助活動」が9.0%、女性では「高齢者・障害者などへの福祉活動」が9.4%で全体、女性（男性）と比べて多くみられる。
- ・県との比較では、大きな差は見られない。
- ・『今後活動してみたいもの』としては「趣味や教養、スポーツなどのグループ活動」が多くみられる。



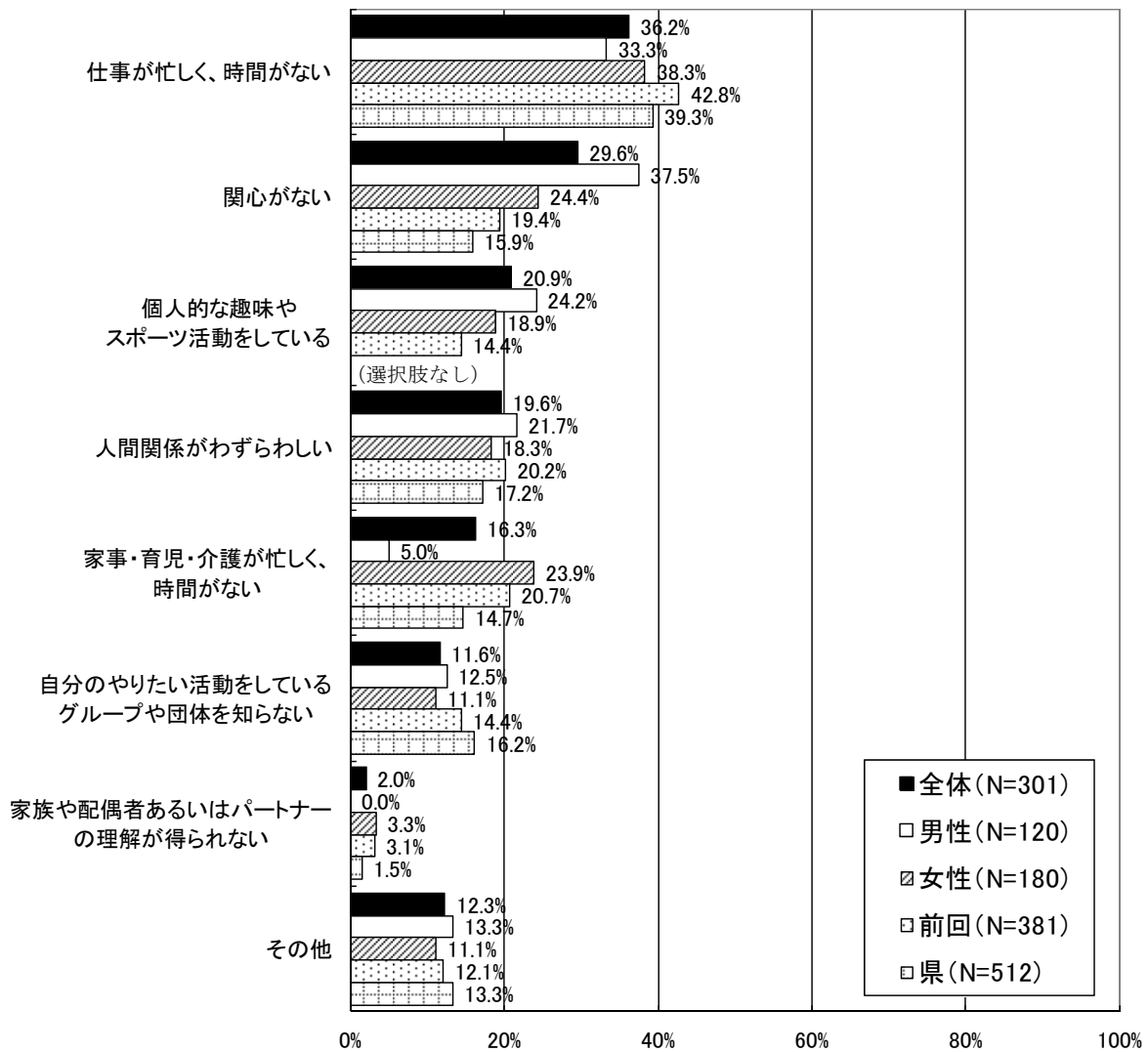
※全体の割合が多い順に並び替えて表記

問16. 問15の現在活動しているものの中で「特になし」に○をつけた方にお聞きします。
社会的な活動に参加していない理由は何ですか。（○は2つまで）

▼クロス集計：性別（問1）【前回、県調査と比較】

- ・全体では「仕事が忙しく、時間がない」が36.2%で最も多く、次いで「関心がない」が29.6%となっている。
- ・「家事・育児・介護が忙しく、時間がない」については、女性が男性より15.9ポイント上回っている。
- ・前回との比較では「関心がない」が10.2ポイント増加している。
- ・県とはほぼ同様の傾向がみられるが、「関心がない」が13.7ポイント上回っている。

※現在の活動について「特になし」と回答した 310人が対象



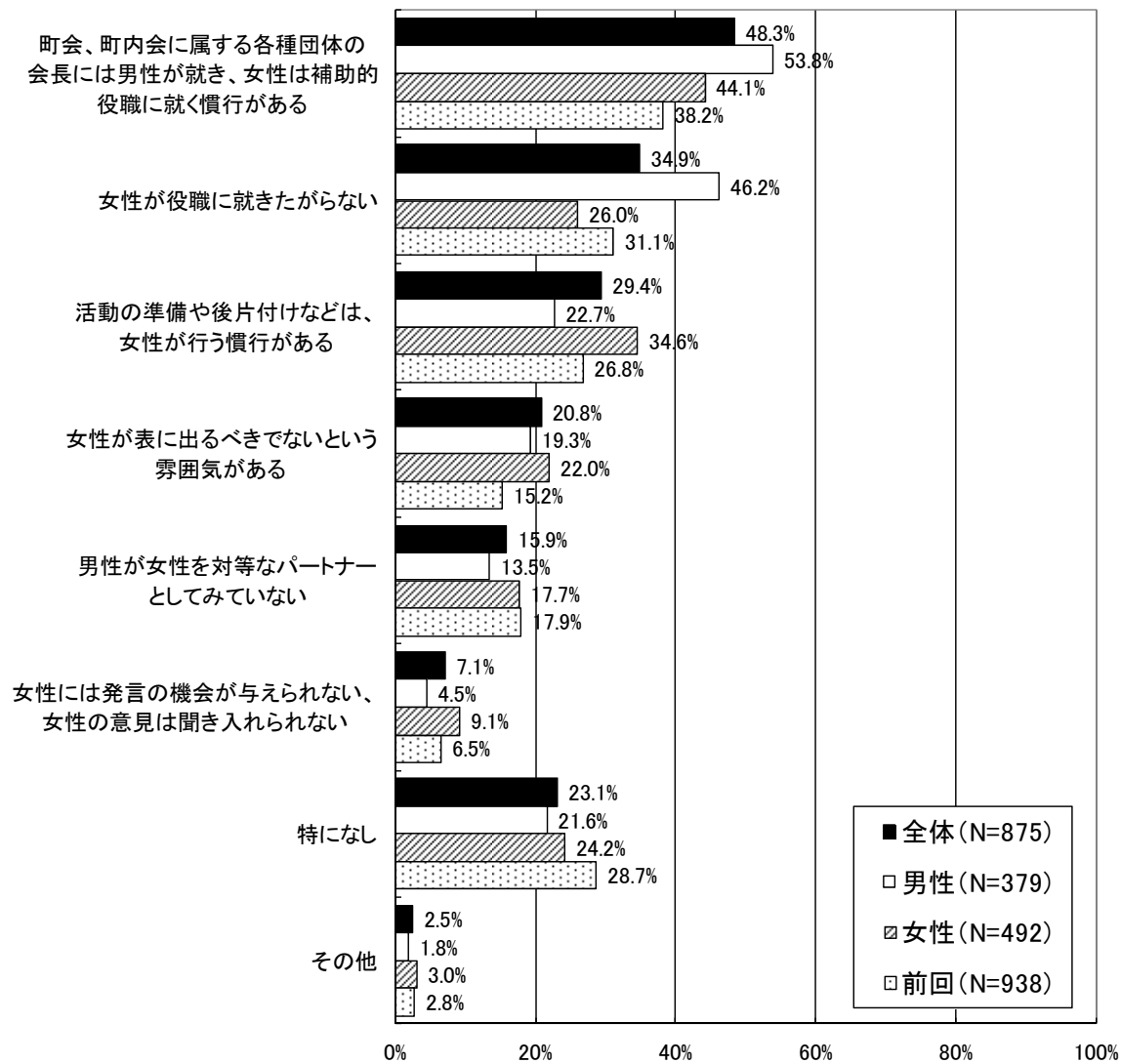
※全体の割合が多い順に並び替えて表記

その他意見：高齢である、病気や体調不良、以前活動していた団体が廃止になった、活動日と生活スタイルとの不一致、参加する機会がない など

問17. 地域活動の中で男女の役割分担について思うことは何ですか。（〇はいくつでも）

▼クロス集計：性別（問1）【前回調査と比較】

- ・全体では、「町会、町内会に属する各種団体の会長には男性が就き、女性は補助的役割に就く慣行がある」が48.3%で最も多く、次いで「女性が役職に就きたがらない」が34.9%となっている。
- ・男性は「町会、町内会に属する各種団体の会長には男性が就き、女性は補助的役割に就く慣行がある」が9.7ポイント、「女性が役職に就きたがらない」が20.2ポイント女性より高く、女性は「活動の準備や後片付けなどは、女性が行う慣行がある」が11.9ポイント男性より高くなっており、男女間で認識の差がみられる。
- ・前回との比較では「町会、町内会に属する各種団体の会長には男性が就き、女性は補助的役割に就く慣行がある」が10.1ポイント増加している。

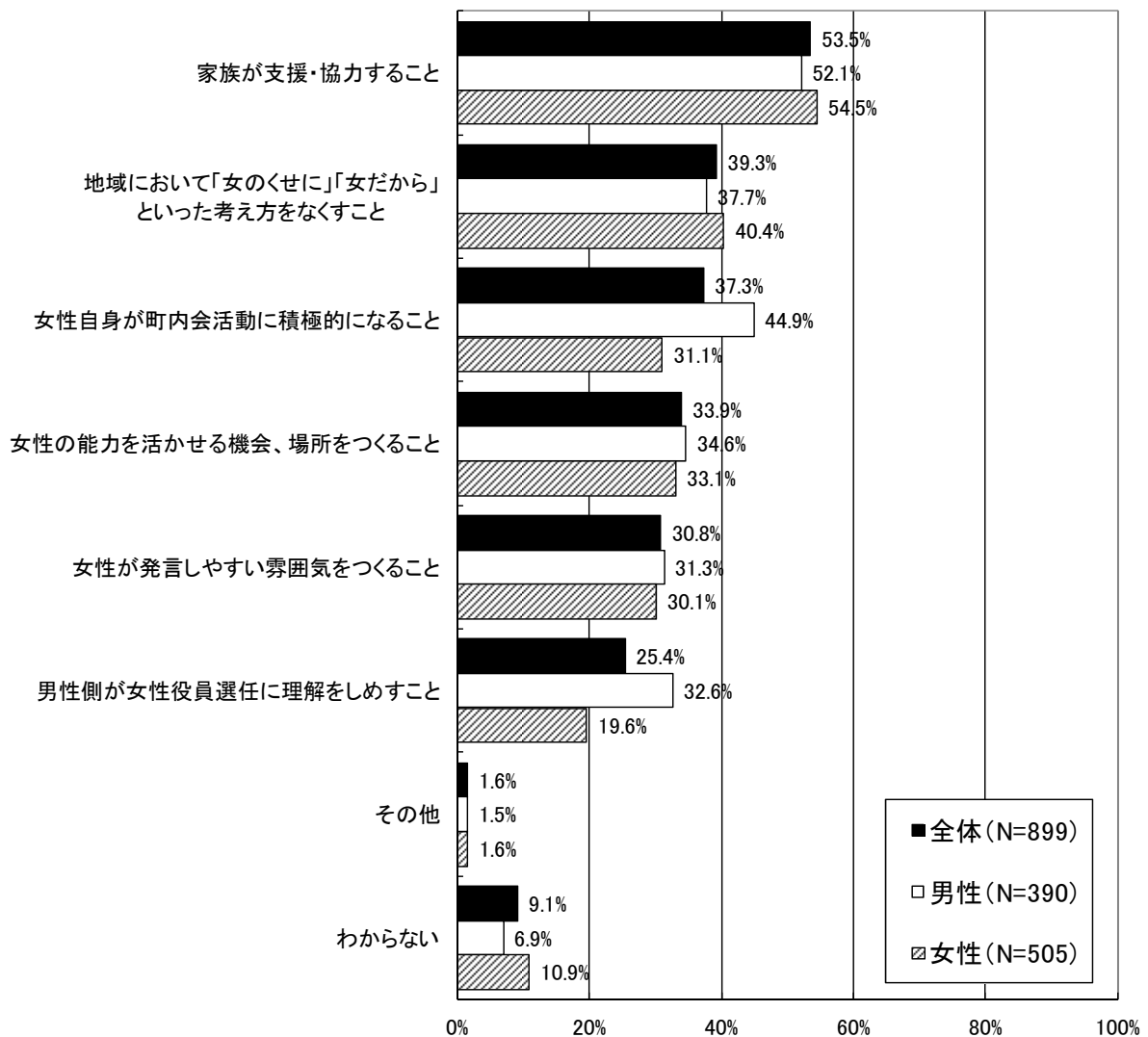


※全体の割合が多い順に並び替えて表記

問18. 市政や地域活動などでの政策・方針決定の場において、女性が進出していくために何が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

▼クロス集計：性別（問1）

・全体では「家族が支援・協力すること」が53.5%で最も多く、次いで「地域において『女のくせに』『女だから』といった考えをなくすこと」が39.3%となっている。
 ・男女別にみると「女性自身が町内会活動に積極的になること」や「男性側が女性役員選任に理解をしめすこと」については、男性が女性より各々13.8ポイント、13.0ポイント上回っており、男女間で認識の差がみられる。



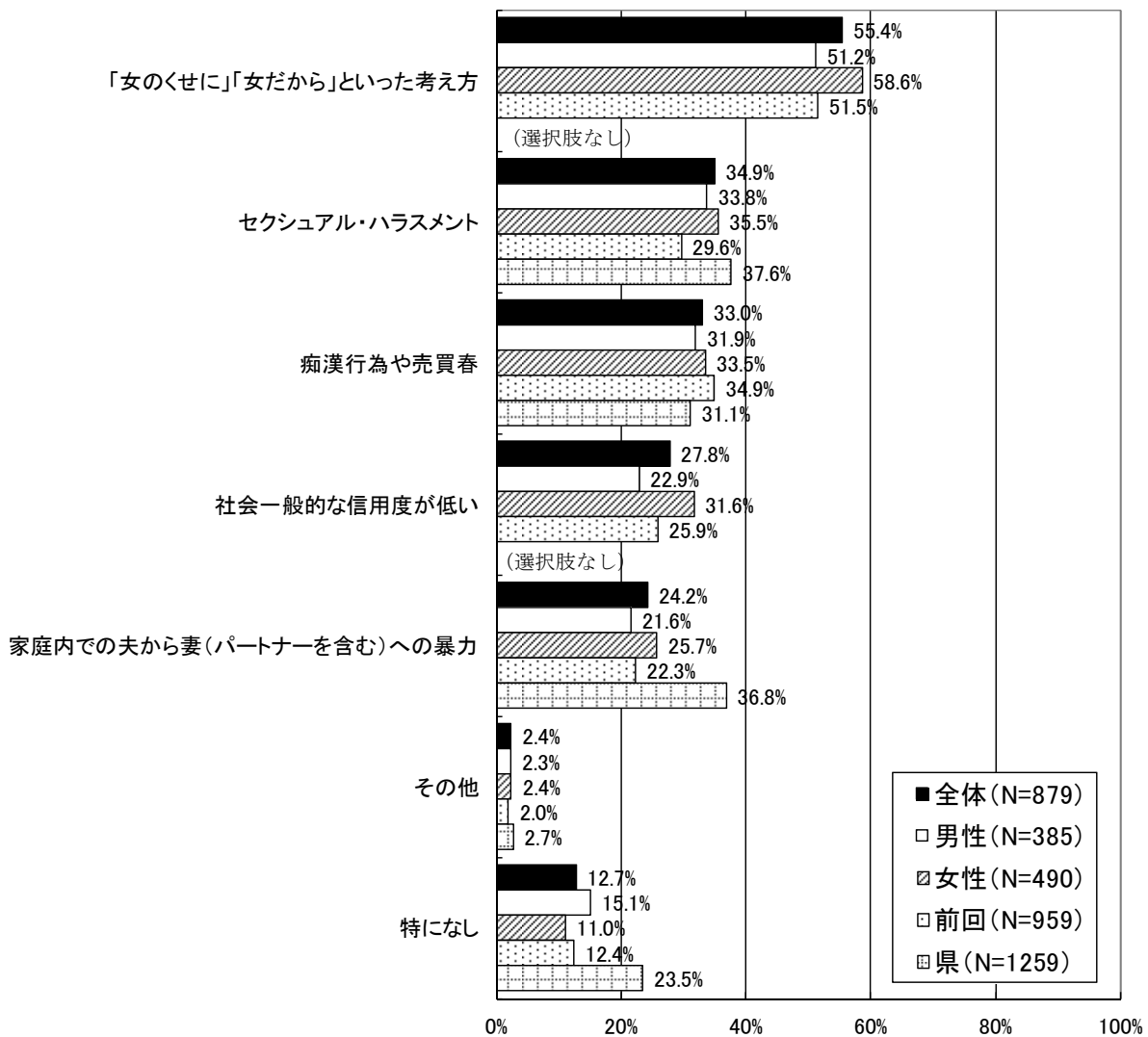
※全体の割合が多い順に並び替えて表記

4) 人権について

問19. あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。(〇はいくつでも)

▼クロス集計：性別（問1）【前回、県調査と比較】

- ・全体では『女のくせに』『女だから』といった考え方が55.4%で最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメント」が34.9%となっている。
- ・男女別にみると、すべての項目について女性の割合が高くなっており、特に「社会一般的な信用度が低い」は女性が男性より8.7ポイント上回っている。
- ・前回との比較では、大きな変化は見られない。
- ・県との比較では「家庭内での夫から妻（パートナーを含む）への暴力」が12.6ポイント下回っている。

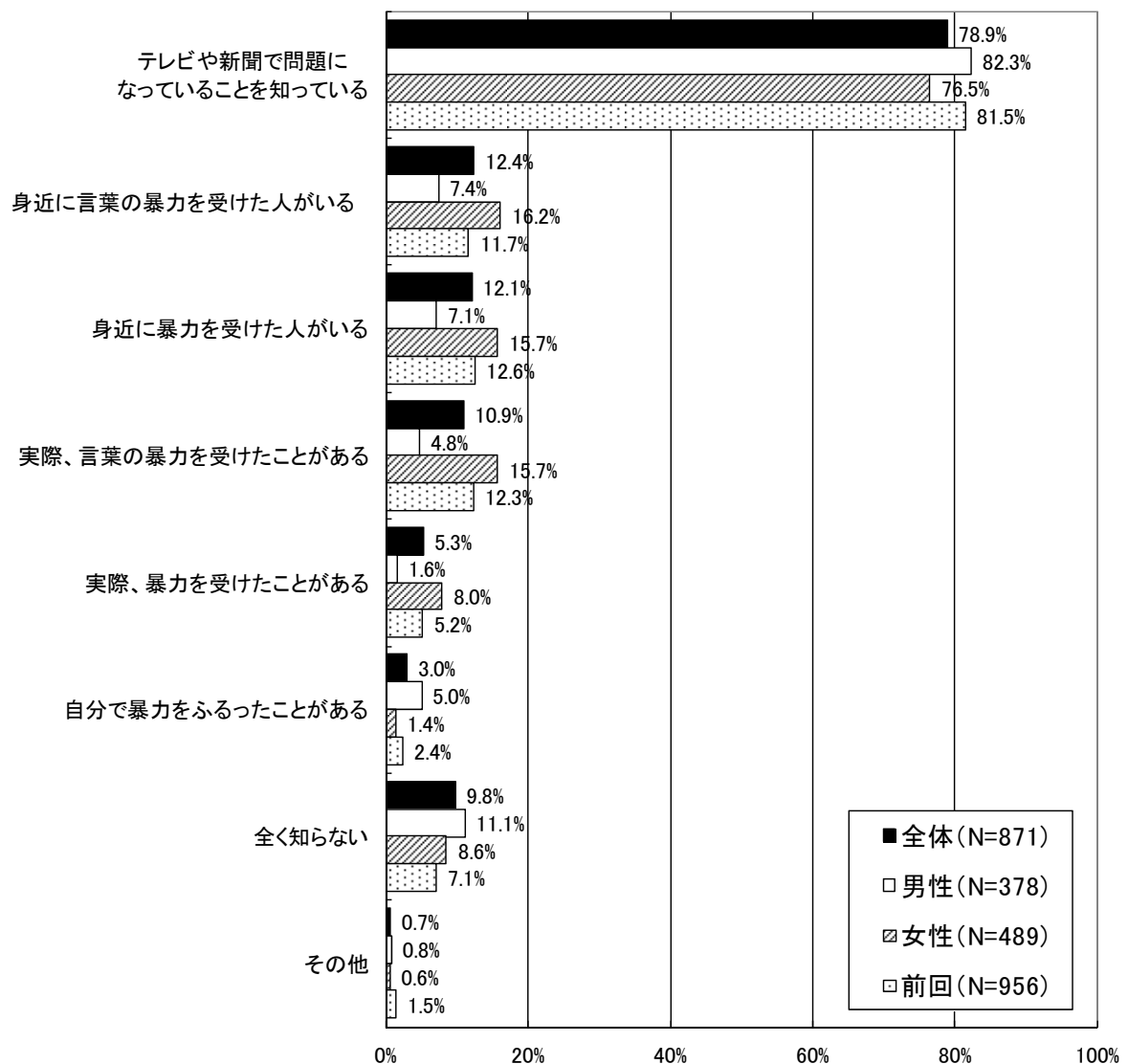


※全体の割合が多い順に並び替えて表記

問20. パートナー（配偶者や恋人）との間で、身体的・心理的な暴力を受けるドメスティック・バイオレンス（DV）について、あなたは身近で見聞きしたり、自分が受けたりしたことがありますか。（〇はいくつでも）

▼クロス集計：性別（問1）【前回調査と比較】

- ・全体では「テレビや新聞で問題になっていることを知っている」が78.9%で最も多くなっている。
- ・女性は「実際、言葉の暴力を受けたことがある」が10.9ポイント、「身近に言葉の暴力を受けた人がある」が8.8ポイント男性より上回っている。
- ・前回との比較では、大きな変化は見られない。

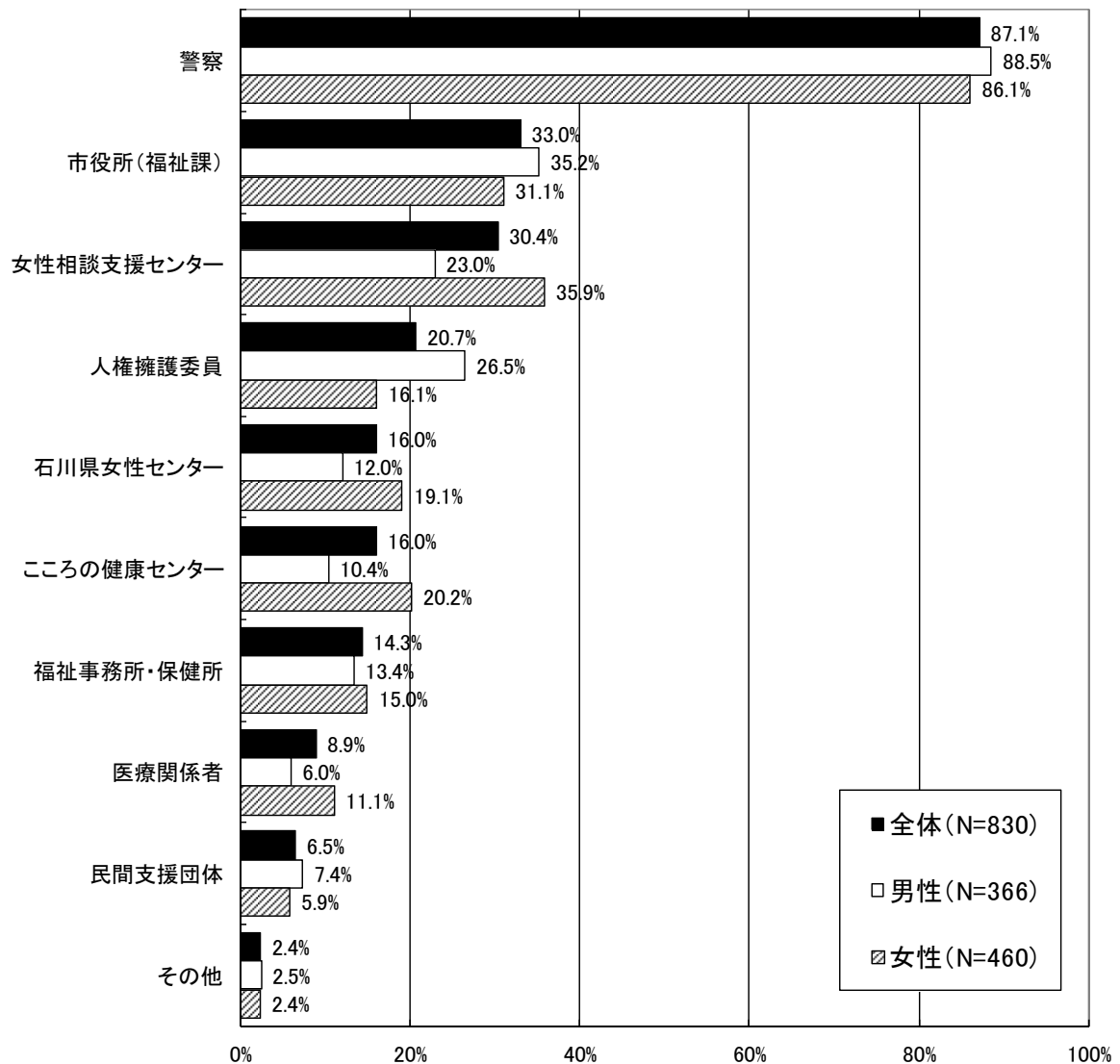


※全体の割合が多い順に並び替えて表記

問21. パートナー（配偶者や恋人）との間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関や関係者のうち知っているものをすべて選んでください。（〇はいくつでも）

▼クロス集計：性別（問1）

- ・全体では「警察」が87.1%で最も多くなっている。
- ・女性は「女性相談支援センター」、「石川県女性センター」、「こころの健康センター」、「医療関係者」で男性を大きく上回っている。

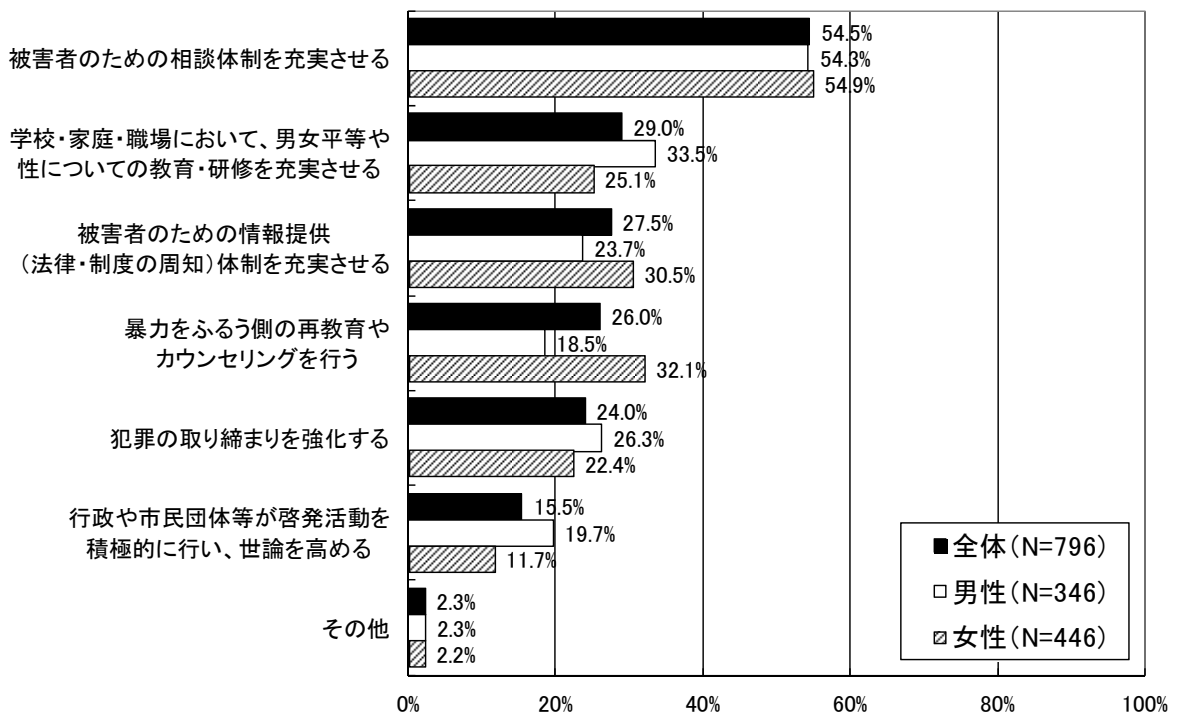


※全体の割合が多い順に並び替えて表記

問22. セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスなど人権を侵害するような行為に対して、どのような取り組みが重要だと思いますか。次の中から選んでください。（〇は2つまで）

▼クロス集計：性別（問1）

・全体では「被害者のための相談体制を充実させる」が54.5%で最も多くなっている。
 ・男性は「学校・家庭・職場において、男女平等や性についての教育・研修を充実させる」が8.4ポイント、「行政や市民団体等が啓発活動を積極的に行い、世論を高める」が8.0ポイント女性を上回り、女性は「暴力をふるう側の再教育やカウンセリングを行う」が13.6ポイント男性を上回っている。



※全体の割合が多い順に並び替えて表記

5) 就労について

問23. <現在、雇われて働いている方にお聞きします>

あなたの職場では、次にあげるそれぞれの面で男女平等になっていると思いますか。

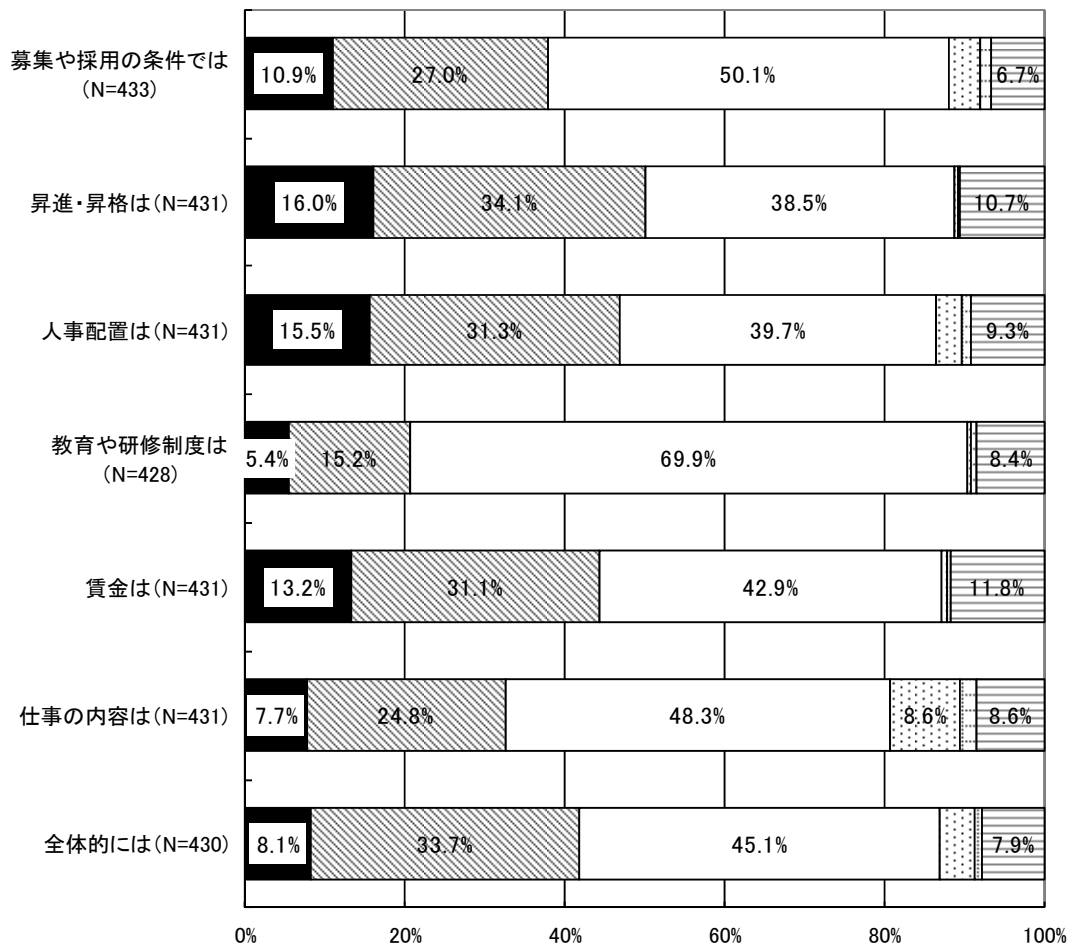
(○はそれぞれ1つ)

▽全体集計

- ・『昇進・昇格』は「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計が50.1%と半数を占めている。
- ・教育や研修制度においては「平等である」が69.9%を占めている。
- ・すべての項目で、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計が「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計を大きく上回っている。

※雇われて働いている454人が対象

- 男性が優遇されている
- 平等である
- ▣ 女性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▩ どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない

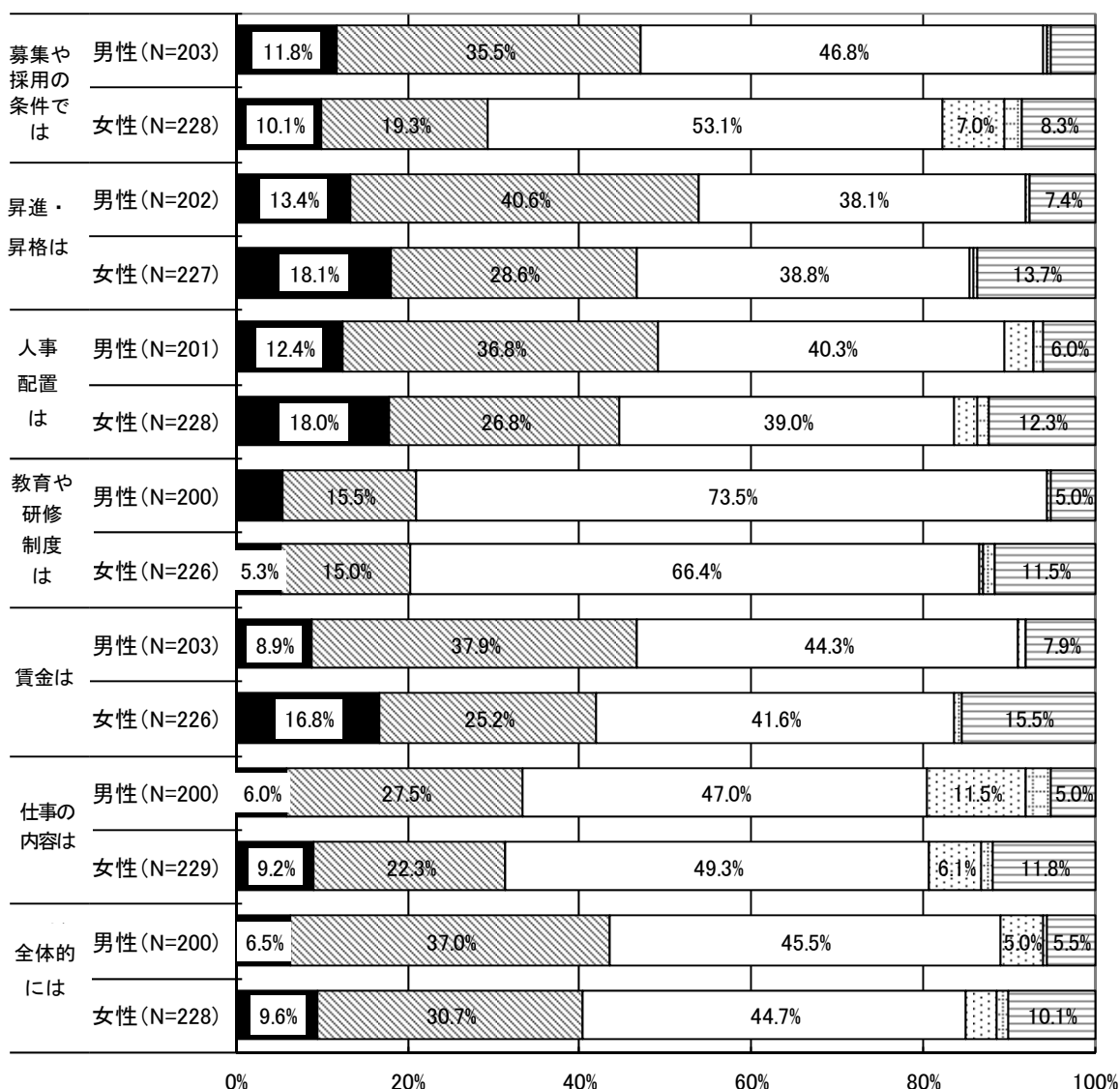


※5%未満は、数値表記を省略

▼クロス集計：性別（問1）

- ・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計は『募集や採用の条件では 17.9 ポイント、『昇進・昇格』では 7.3 ポイント男性が女性より上回っている。
- ・『教育や研修制度』は「平等である」が男女ともに 60%以上であり、他の項目と比較して最も高くなっている。
- ・「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計は、すべての項目で男性が女性を上回っている。

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ わからない



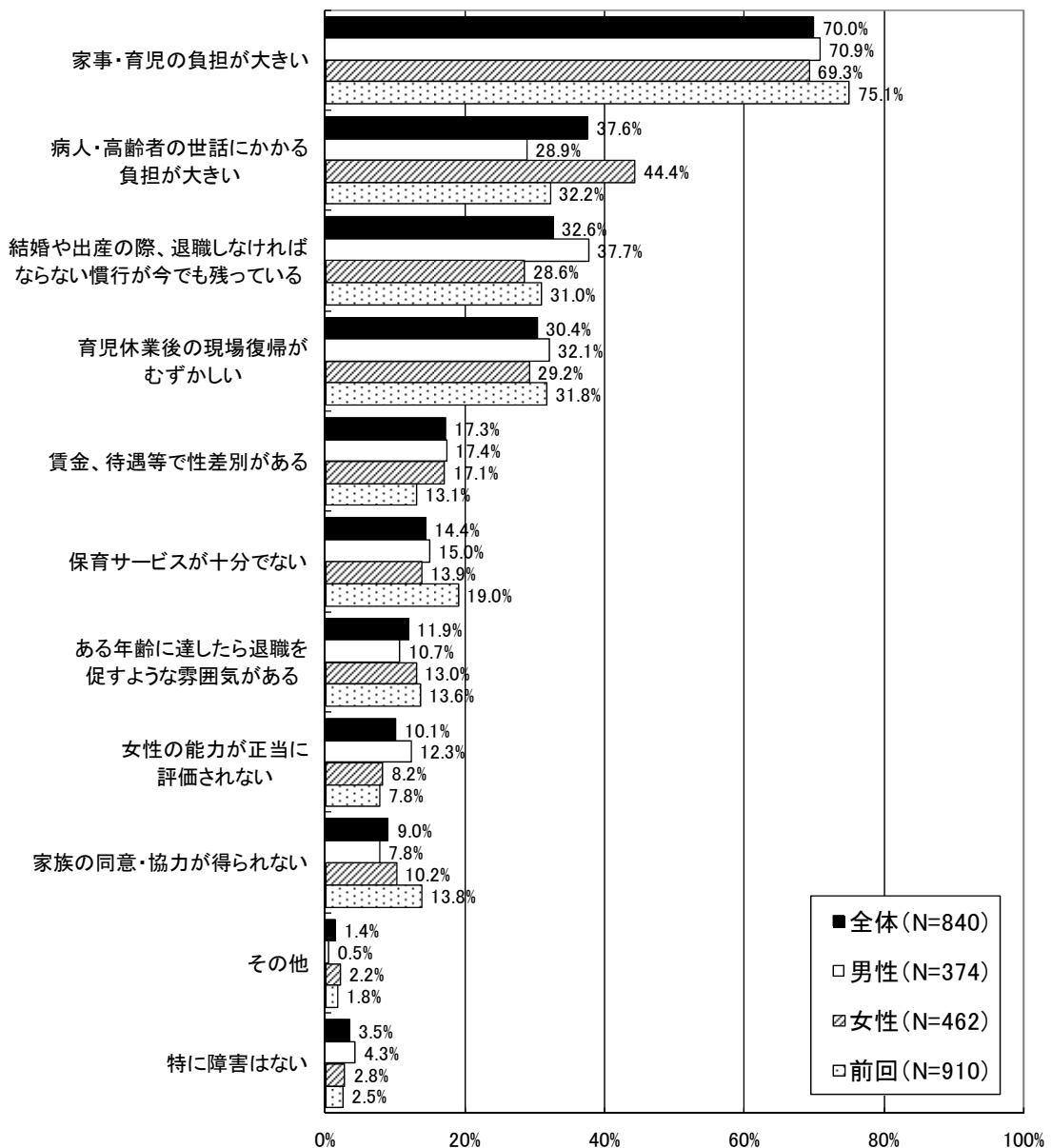
※5%未満は、数値表記を省略

問 24. <全員にお聞きします>

女性が職業を続けていく上では、どんな障害があると思いますか。(〇は3つまで)

▼クロス集計：性別（問1）【前回調査と比較】

- ・全体では「家事・育児の負担が大きい」が70.0%で最も多くなっている。
- ・「病人・高齢者の世話にかかる負担が大きい」は女性が男性より15.5ポイント上回っている。
- ・「結婚や出産の際、退職しなければならない慣行が今でも残っている」は男性が女性より9.1ポイント上回っている。
- ・前回との比較では「家事・育児の負担が大きい」が5.1ポイント、「家族の同意・協力が得られない」が4.8ポイント下回り、「病人・高齢者の世話にかかる負担が大きい」が5.4ポイント上回っている。

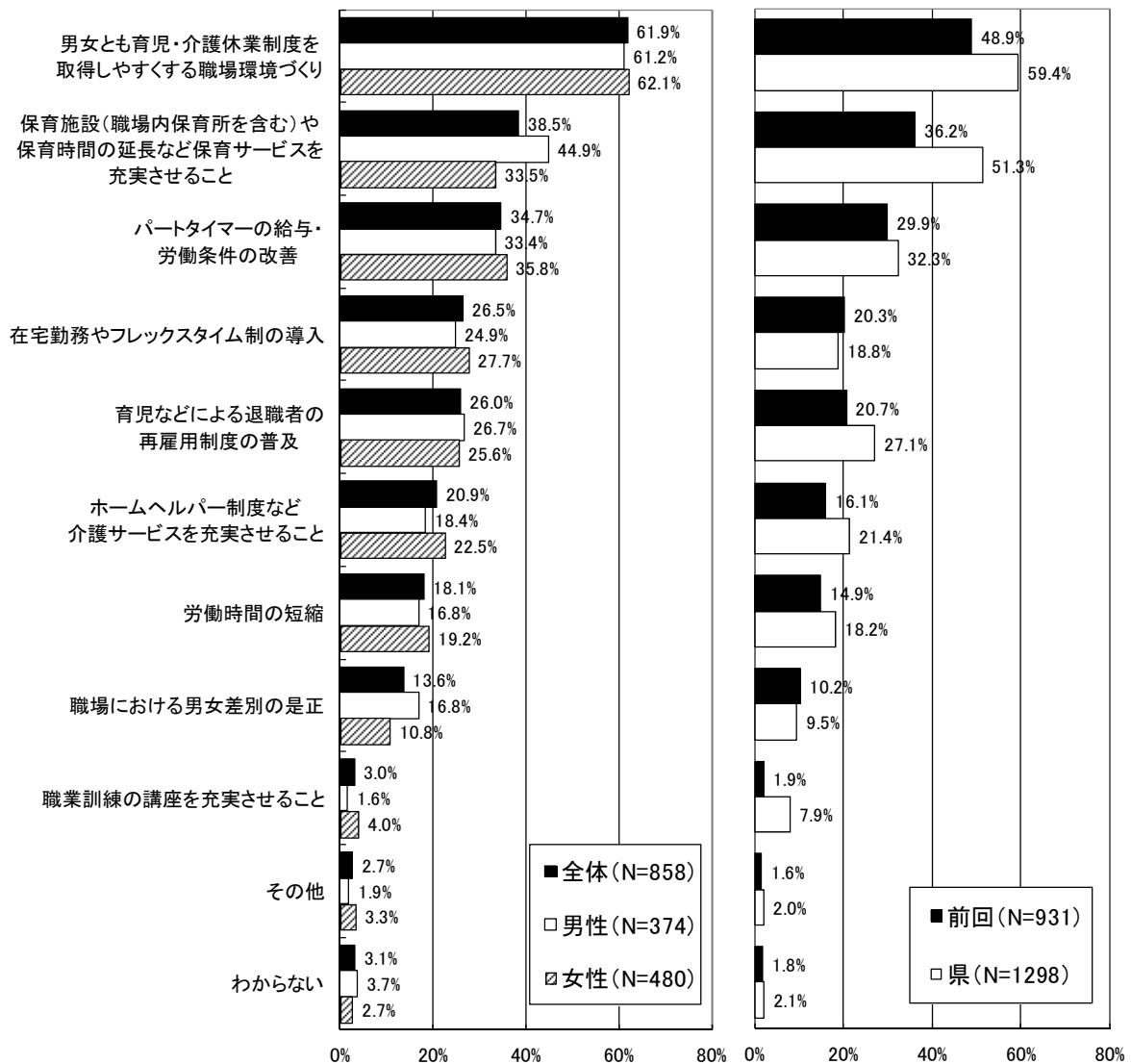


※全体の割合が多い順に並び替えて表記

問25. 仕事と家庭の両立をしていくためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。
 (○は3つまで)

▼クロス集計：性別（問1）【前回、県調査と比較】

- ・全体では「男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり」が61.9%で最も多くなっており、次いで「保育施設（職場内保育所を含む）や保育時間の延長など保育サービスを充実させること」が38.5%となっている。
- ・男性は「保育施設（職場内保育所を含む）や保育時間の延長など保育サービスを充実させること」が女性より11.4ポイント上回っている。
- ・前回との比較では「男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり」が13.0ポイント高くなっている。
- ・県との比較では「保育施設（職場内保育所を含む）や保育時間の延長など保育サービスを充実させること」が12.8ポイント下回っている。



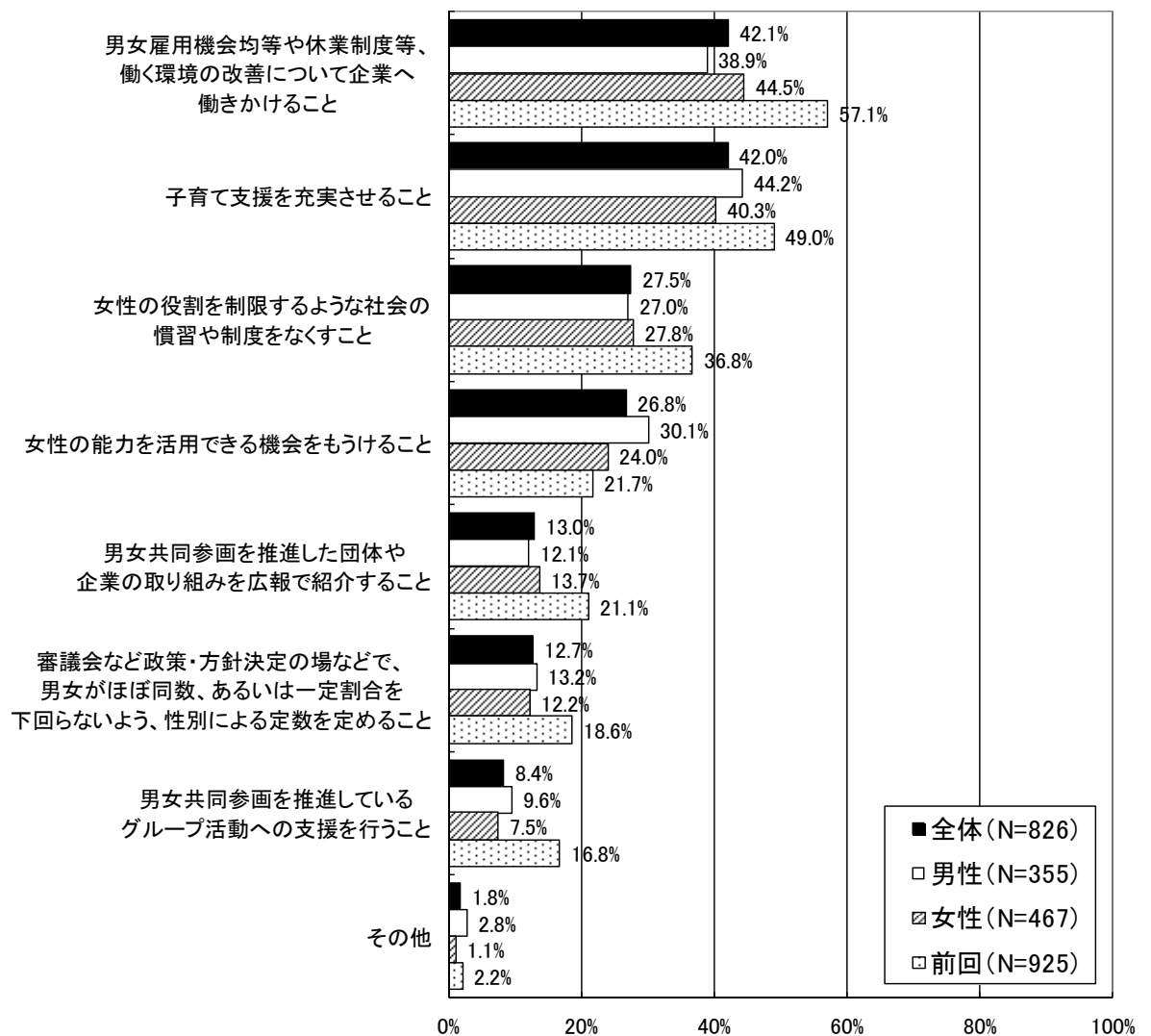
※全体の割合が多い順に並び替えて表記

6) 行政について

問26. これからの「男女共同参画社会」づくりの取り組みについて、「行政が特に力を入れるべき」と思うものはなんですか。（〇は2つまで）

▼クロス集計：性別（問1）【前回調査と比較】

- ・全体では「男女雇用機会均等や休業制度等、働く環境の改善について企業へ働きかけること」が42.1%で最も多くなっており、次いで「子育て支援を充実させること」が42.0%となっている。
- ・男性は「女性の能力を活用できる機会をもうけること」が女性より6.1ポイント上回っており、女性は「男女雇用機会均等や休業制度等、働く環境の改善について企業へ働きかけること」が男性より5.6ポイント上回っている。
- ・前回との比較では「男女雇用機会均等や休業制度等、働く環境の改善について企業へ働きかけること」が15.0ポイント減少している。



※全体の割合が多い順に並び替えて表記

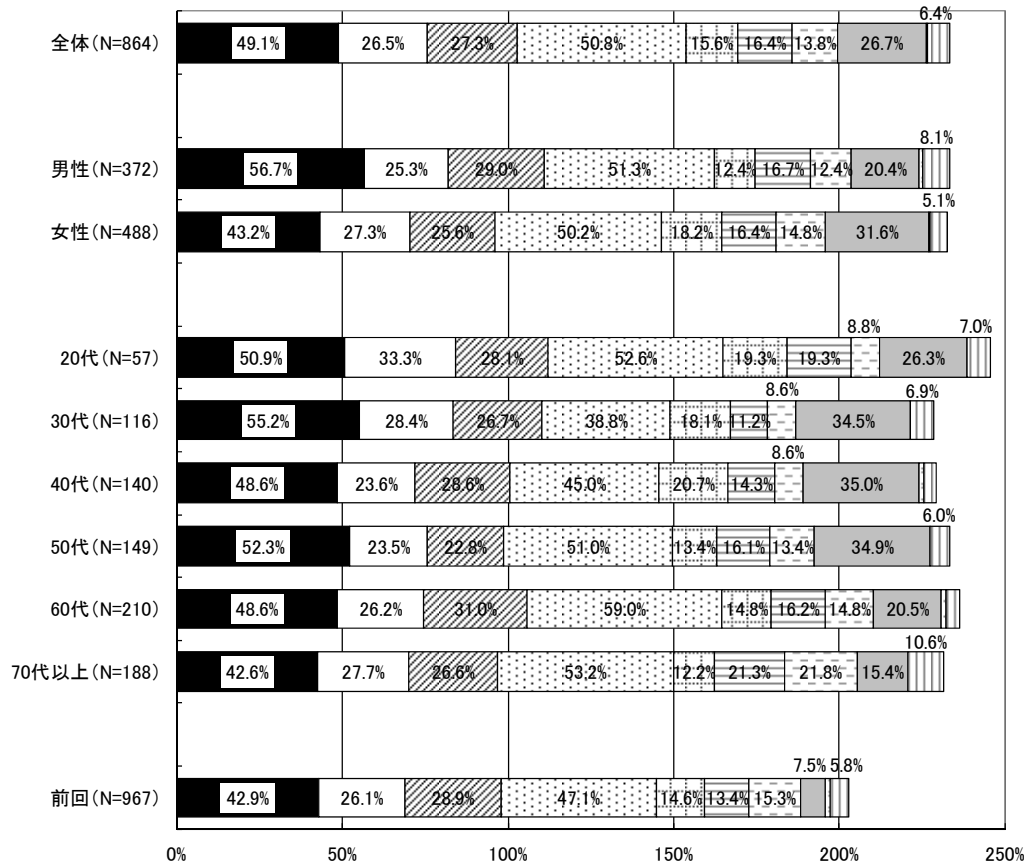
7) 男女共同参画社会の実現について

問27. 「男女共同参画社会」の実現のために、あなた自身は何ができると思いますか。
(○は3つまで)

▼クロス集計：性別（問1）、年齢別（問2）【前回調査と比較】

- ・全体では「相手の立場に立って物事を理解するよう努める」が50.8%で最も多くなっており、次いで「仕事、家事、育児を配偶者あるいはパートナー間で共に担う」が49.1%となっている。
- ・男性は「仕事、家事、育児を配偶者あるいはパートナー間で共に担う」が女性を13.5ポイント上回り、女性は「ワークライフバランスの実現に努める」が男性より11.2ポイント上回っている。
- ・50代以下では「ワークライフバランスの実現に努める」の割合が高くなっている。
- ・前回との比較では「ワークライフバランスの実現に努める」が19.2ポイント増加している。

- 仕事、家事、育児を配偶者あるいはパートナー間で共に担う
- 家庭における子どものしつけや教育で、「男だから、女だから」の分け隔てをしない
- 配偶者あるいはパートナー間でコミュニケーションを深めるために会話を増やす
- 相手の立場に立って物事を理解するよう努める
- 自分の意思を相手に伝える技術を身につける
- 男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する
- 社会活動に積極的に参加する
- ワークライフバランスの実現に努める
- その他
- 特になし



※5%未満は、数値表記を省略

問28. このアンケートを通して感じたことをご自由にお書きください。
また、身近で参考になる事例等がありましたら、ご記入ください。

▽全体集計

- ・男女共同参画については、「一般社会全体」や「子育て・介護」に対する意見が多くなっている。
- ・「アンケートの実施」に対する意見が多くなっている。

回答者数：195人

大分類	中分類	のべ件数	割合
男女共同参画について	会社・職場	16	7.9%
	地域	2	1.0%
	家庭・家族	13	6.4%
	一般社会全般	17	8.4%
	男性と女性の性質の違い	12	5.9%
	男性と女性の考え方の違い	15	7.4%
	男女共同参画社会に対する否定的な意見	15	7.8%
	子育て・介護	17	8.4%
	学校・教育	2	1.0%
	行政に対する意見	-	21
少子高齢化について	-	6	3.0%
セクハラ・性差別について	-	5	2.5%
アンケートについて	アンケート実施について	34	16.8%
	アンケートの設問について	6	3.0%
高齢による回答困難	-	6	3.0%
その他	-	15	7.4%
合計		202	100.0%

※自由回答には、複数の分類項目に該当するものもあり、合計は分類後ののべ件数となる

能美市男女共同参画に向けた市民アンケート調査 考察

※（ ）内は報告書のページ番号に対応する

◆調査の概要

- ・アンケートの回収率が37.3%に留まっており、一般市民の「男女共同参画」に対する関心は低い。(P2)

【参考】

前回調査(H18)	回収率：41.0%
男女共同参画に関する県民意識調査(H22)	回収率：52.6%
男女共同参画に関する世論調査(H24)	回収率：60.7%
能美市民満足度調査(H25)	回収率：42.9%

⇒一般市民にとってわかりやすく・受け入れやすい広報・啓発に努めることが求められる。

◆問7：「男女共同参画社会」の認知度

- ・20代においては、男女間で認知度の乖離が大きく、男性は「言葉は知っているが、内容は理解していない」と「言葉も内容も知らない」の合計が半数以上を占めている。(P8)
- ・30代においても、男女間で認知度の乖離が大きく、女性は「言葉は知っているが、内容は理解していない」と「言葉も内容も知らない」の合計が60%以上を占めている。(P8)
- ・全体としては、男性より女性の認知度が低くなっており、男性では約4割、女性では約5割の人が男女共同参画社会について理解していない。また、前回と比較しても認知度は下がっている。(P8)

⇒世代により男女間の認知度に差が見られるが、全体としては男女共に認知度は低く、“男女共同参画社会の意義”を含め、広報・啓発に努めることが求められる。

◆問8-A：男女の平等感

- ・男性優位社会の要因としては、男性では「社会通念」、「政治・経済」、「職場」、「地域活動」、「法律・制度」が、女性では「社会通念」「政治・経済」が影響している。(P11)

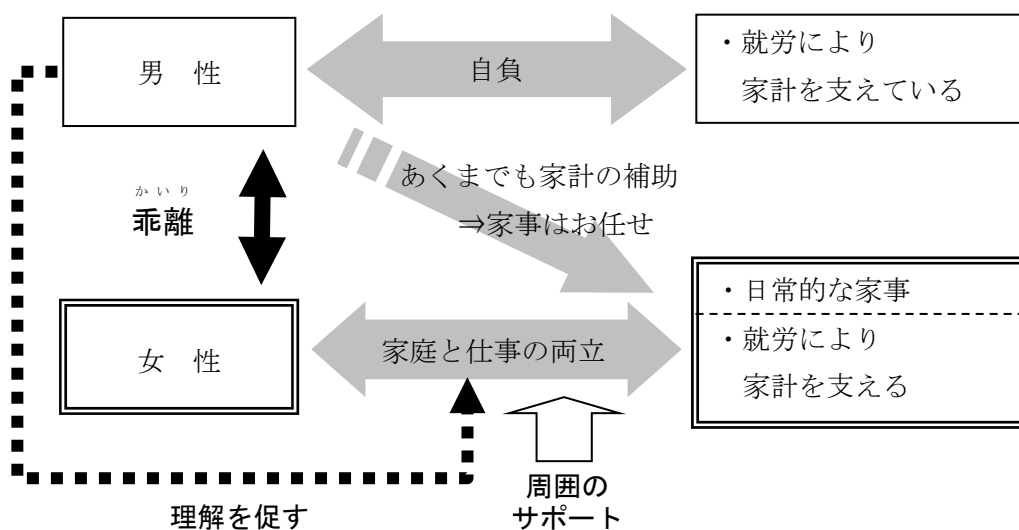
⇒要因とされる環境の改善を一施策として取り組むことは容易ではないが、男性優位社会と認識されていることの周知及び男女共同参画の意識啓発に努めることが求められる。

◆問 11、12：家庭の仕事

- ・ 日常的な家庭の仕事については妻が行っている場合がほとんどであり、男性は就労により家計を支えていることに対して自負が強いことがうかがえる。(P17)
- ・ 親と同居している場合、別居している場合よりも「掃除」、「洗濯」、「食事の支度」、「家計の管理」における妻の負担が多少軽くなっている。(P18)
- ・ 「掃除」、「洗濯」、「食事の支度」、「家計の管理」は、主に妻が行っている割合が高いが、「掃除」、「家計の管理」については女性の『女性と男性が同じ程度の役割』であるべきとの意見が目立つことより、夫やパートナーに分担して欲しいと願う傾向が強くみられる。(P17、20)
- ・ 既婚者の現況と考えには大きな乖離が見られ、特に「掃除」、「洗濯」、「食事の支度」、「家計の管理」については、主に妻（女性）が行っているが夫（男性）にも分担して欲しいという意向が読み取れる。(P23)

⇒女性も就労によって家計を支えているため、男性に対して家事の分担を願っている。男性においては、女性の就労に対する理解を促進することが必要であり、こうした意識啓発のための施策展開が求められる。

⇒女性の家事の負担の軽減が、女性の社会進出のきっかけになるとも考えられるため、親のサポートを受けつつ、社会進出しやすい家庭環境を整えることが求められる。



◆問 15：社会的な活動、問 16 活動していない理由、

問 18：女性が進出していくために必要なこと

- ・男女ともに社会的な活動に参加している人は多く、「趣味や教養、スポーツなどのグループ活動」への参加意欲は高い。(P26)
- ・市政や地域活動などでの政策方針決定の場において、女性が進出していくために必要なこととして「家族が支援・協力すること」、また社会的な活動に参加しない理由として「仕事が忙しく、時間がない」ことや「家事・育児・介護が忙しく、時間がない」ことが多く挙げられており、これらの結果を照らし合わせると、社会的な参加への意向があっても、家族の支援・協力を得られにくいという現状を変えることが大変だと感じていることがうかがえる。(P26、27、29)

⇒男性と同様に社会的活動（趣味や教養、スポーツなど）に参加したいと考える女性が多いことから、男性の働く環境の改善や意識啓発による家事分担の軽減とあわせて、女性の社会的活動を促進させることで、男女共同参画社会実現に向けた相乗効果が期待できる。

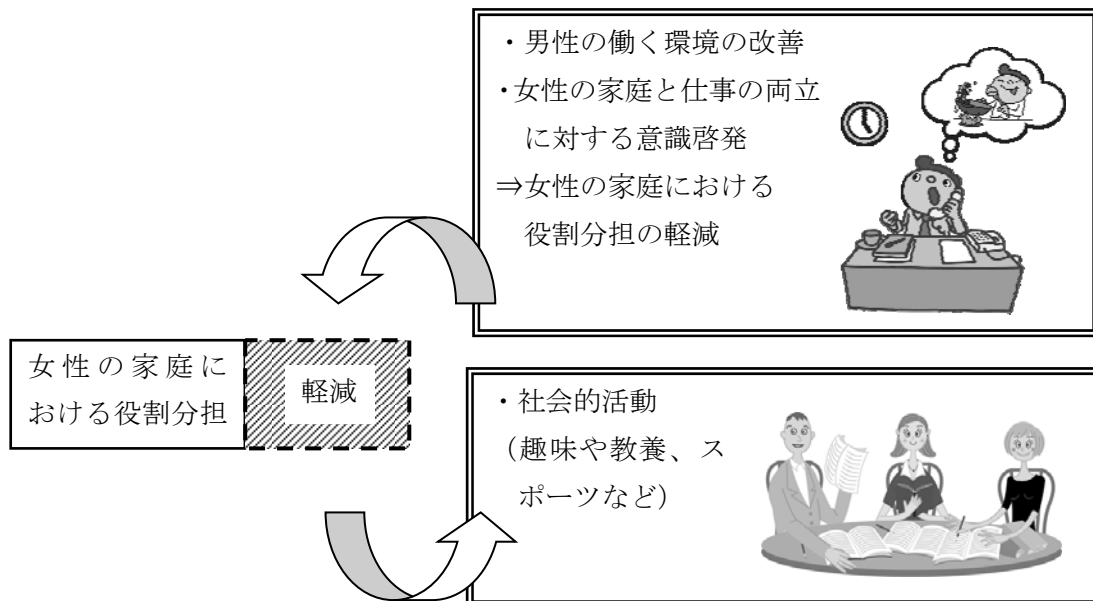
※なお、アンケート調査では、設問構成から「仕事以外の社会的活動」に限定されているが、実際には、就労を含めた中での社会的活動の展開が期待される。

<現状イメージ>



- ・就労は、家計の補助として認識され、日常的な家庭の仕事はほとんど妻の役割
- ・現状を変えることが大変だと感じている

<男女共同参画社会実現に向けた施策展開（例）>



◆問 17：地域活動の中で男女の役割分担について思うこと

問 18：女性が進出していくために必要なこと

- ・地域活動においては、「女性は補助的役職に就く慣行がある」、あるいは「女性が役職に就きたがらない」の割合が多くみられ、「家族が支援・協力すること」が必要との回答が多い。(P28、29)

⇒女性に対しては、意識の向上を促すとともに社会参加の機会を増やすことが求められる。また男性に対しては、女性の社会参加に対する理解と協力が求められる。

◆問 19：女性の人権が尊重されていないと感じることについて

- ・『女のくせに』『女だから』といった考え方」との回答が多くみられ、このほか女性では、「社会一般的な信用度が低い」が比較的多くみられる。(P30)

⇒人権意識が高まる中、男女の固定的な偏見意識は“誤った社会通念”にとどまらず、“人権を尊重していない”こととして捉えられていることについて、意識啓発を図ることが必要である。

◆問 20：DVについて

- ・「テレビや新聞で問題になっていることを知っている」が最も多いが、「身近に言葉の暴力を受けた人がいる」、「身近に暴力を受けた人がいる」、「実際、言葉の暴力を受けたことがある」と答えた人も1割程度存在している。(P31)

⇒加害者がDVだと認識していないことも想定されるため、DVの内容理解とあわせて、暴力が人権を侵害する犯罪行為であることの意識啓発を図る必要がある。

◆問 21：DVを受けたときに相談できる機関や関係者について

- ・「警察」が男女共に最も多く、「女性相談支援センター」や「石川県女性センター」等の女性向けの機関については、男女間で認識に差が生じている。(P32)

⇒相談窓口として最も挙げられている「警察」では、職員のDVに対する正しい理解と対応が求められる。

⇒その他の機関についても、さらに認知されるよう普及啓発を図る必要がある。

◆問 22：人権を侵害する行為に対する取り組みについて

- ・男女ともに「被害者のための相談体制を充実させる」ことが最も重要だと考えている。(P33)

⇒問 21 の相談できる機関の充実及び周知に努めることが重要だと考えられる。

◆問 23：職場の環境について

- ・「平等である」が最も高い割合を示すものの、全体で見れば男性優位であるという認識が強い。(P34)
- ・「募集や採用の条件」、「昇進・昇格」については、男女間で認識に差が生じている。(P35)

⇒就労環境改善の取り組みについて、企業等に積極的に呼びかけることが必要である。

◆問 24：女性が職業を続けていく上での障害について

問 25：仕事と家庭を両立するために必要なことについて

- ・「家事・育児の負担が大きい」ことは男女共通で障害であるという認識があり、「病人・高齢者の世話にかかる負担が大きい」については、特に女性が障害と感じている傾向にある。(P36)
- ・仕事と家庭の両立のためには、「育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり」や「保育施設（職場内保育所を含む）や保育時間の延長など保育サービスを充実させること」が重要だと考えられている。(P37)

⇒企業等が積極的に育児・介護休業制度を取得しやすくなる職場環境を整え、職場内保育所の充実に努めることや、行政が保育サービスを充実させることが必要である。

◆問 26：行政が特に力を入れるべきと思うものについて

・「働く環境の改善について企業へ働きかけること」や「子育て支援を充実させること」が多く挙げられている。(P38)

⇒『働く環境の改善』および『子育て支援』については、少子化の原因（問 14）、社会的な活動に参加していない理由（問 16）、女性が働き続けていく上での障害（問 24）の中でも挙げられており、関係機関の連携による横断的な取り組みとして施策を展開させることが求められる。

⇒「働く環境の改善について企業へ働きかけること」では、育児・介護休業制度導入の好事例の収集に努め、企業にとってのプラス面も PR しつつ企業等へ自主的な取り組みを働きかけることが求められる。

⇒このほか男女共同参画の実現に向けて、条例の制定や市民参画による男女共同参画プランの策定など、行政としても積極的な取り組みが求められる。

